Agilent Xシリーズ シグナル・アナライザ

本書は以下のXシリーズ・アナライザに関するマニュアルです。

PXAシグナル・アナライザ N9030A
MXAシグナル・アナライザ N9020A
EXAシグナル・アナライザ N9010A
CXAシグナル・アナライザ N9000A

入門ガイド

ご注意

商標について

Microsoft®は、Microsoft Corporationの米国における登録商標です。
Windows®およびMS Windows®は、Microsoft Corporationの登録商標です。
Adobe Reader®は、Adobe System Incorporatedの米国における登録商標です。
Java™はSun Microsystems, Inc.の米国における商標です。
MATLAB®は、Math Works, Inc.の米国における登録商標です。
Norton Ghost™はSymantec Corporationの米国における商標です。

マニュアル・パーツ番号

N9020-90036
更新：N9020-90025

印刷日

2009年10月

印刷：米国

Agilent Technologies, Inc.
1400 Fountaingrove Parkway
Santa Rosa, CA 95403

保証

本書の内容は「現状のまま」で提供されており、将来の版では予告なしに変更される可能性があります。また、Agilentは、該当する法律で許容される最大限度まで、本書とその内容に関して明示暗示を問わずいかなる保証もいたしません。特に、商品性および特定目的への適合性に関する暗黙の保証はありません。本書またはその内容の誤り、またはその利用に伴う偶然的・必然的なあらゆる損害に対して、Agilentは責任を負いません。Agilentとユーザの間に本書の内容を対象とする保証条件を含む書面による契約が存在し、その内容が上記の条件と矛盾する場合は、契約の条件が優先するものとします。

技術ライセンス

本書に記載されているハードウェアおよびソフトウェアは、ライセンスに基づいて提供されており、ライセンスの条件に基づいた使用またはコピーのみが許可されます。

権利の制限について

ソフトウェアが米国政府の主契約または下請契約において使用される場合、ソフトウェアはDFAR 252.227-7014（1995年6月）に定義された「Commercial computer software」、またはFAR 2.101(a)に定義された「commercial item」、またはFAR 52.227-19（1987年6月）または相当する官庁規則または契約条件に定義された「Restricted computer software」として提供され、ライセンスされます。ソフトウェアの使用、複製、公開は、Agilent Technologiesの標準商用ライセンス条件に従い、米国政府の国防省以外の機関の権利はFAR 52.227-19(c)(1-2)（1987年6月）に定義されたRestricted Rightsを超えることはありません。技術データに関する米国政府のユーザの権利は、FAR 52.227-14（1987年6月）またはDFAR 252.227-7015 (b)(2)（1995年11月）に定義されたLimited Rightsを超えることはありません。

安全に関する注意事項

注意

注意の表示は、危険を表します。ここに示す操作手順や規則などを正しく実行または遵守しないと、製品の損傷または重要なデータの損失を招くおそれがあります。指定された条件を完全に理解し、それが満たされていることを確認するまで、注意の指示より先に進まないでください。

警告

警告の表示は、危険を表します。ここに示す操作手順や規則などを正しく実行または遵守しないと、怪我または死亡のおそれがあります。指定された条件を完全に理解し、それが満たされていることを確認するまで、警告の指示より先に進まないでください。

本書の内容

本書には、以下の情報が掲載されています。

1　クイック・スタート

この章では、シグナル・アナライザの初期化方法および信号の表示方法を説明します。

2　フロント・パネルとリア・パネルの機能

フロント・パネルとリア・パネルのキーの機能および表示注釈については、本章を参照してください。

3　測定器のオペレーティング・システム

この章では、Microsoft Windows XPの設定と、Agilent測定器ソフトウェアで使用される設定について説明します。

4　Microsoft Windows XPの使用

この章では、Microsoft Windows XPの主要機能とシグナル・アナライザを組み合わせて使用するための指針を提供します。

5　トラブルシューティング

この章では、シグナル・アナライザやMicrosoft Windows XPで直面する問題を解決するための基本的な手順を詳細に説明します。

保証

Agilent Technologiesの本測定器製品は、部品不良および製造上の不具合について、出荷日から1年間保証されています。保証期間中に製品の不具合が判明した場合は、Agilent Technologiesは修理または交換のうち妥当と判断した方を行います。

本製品に関する保証サービスまたは修理を受けるには、Agilent Technologiesが指定するサービス施設に製品を返送していただく必要があります。Agilent Technologiesへの送料は購入者が支払い、購入者に製品を返送するための送料はAgilent Technologiesが支払うものとします。ただし、国外からAgilent Technologiesに製品を返送する場合は、すべての送料、関税、税金を購入者が支払うものとします。

コンプライアンス

本製品は、一般に認められた業界標準に基づく設計と試験が行われ、安全な状態で出荷されています。操作を安全に行い、製品を安全な状態に保つために、ユーザはドキュメントに記載された情報と警告を遵守する必要があります。

最新情報の入手方法

ドキュメントは定期的に更新されます。本アナライザの最新情報（ファームウェア・アップグレード、アプリケーション情報、製品情報など）については、以下のURLを参照してください。

http://www.agilent.co.jp/find/pxa
http://www.agilent.co.jp/find/mxa
http://www.agilent.co.jp/find/exa
http://www.agilent.co.jp/find/cxa

最新アップデートを電子メールを受け取るには、電子計測UPDATEにご登録ください。

http://www.agilent.co.jp/find/emailupdates

アナライザの損傷を防ぐための方法については、以下を参照してください。

http://www.agilent.co.jp/find/tips

ご使用の製品のソフトウェアは最新版ですか?

Agilentでは、既知の不具合を修正し、製品の機能拡張を組み込むために、ソフトウェア・アップデートを定期的にリリースしています。ご使用の製品のソフトウェア・アップデートを検索するには、Agilentテクニカル・サポートのWebサイトをご覧ください。

www.agilent.co.jp/find/techsupport

目次

4 Microsoft Windows XPの使用

5 トラブルシューティング

索引

1
クイック・スタート

このセクションでは、シグナル・アナライザの初期化方法と信号の表示方法を説明します。

このセクションでは、以下のトピックスについて説明します。

受入れ検査

輸送用カートンと緩衝材に圧力の痕跡がないかどうか検査します。輸送用梱包材は、後でアナライザを別の場所に輸送したり、サービスのためにAgilentに返送したりする場合に備えて、保管しておいてください。

梱包内容の確認

アイテム	付属品	説明
入門ガイド		最初の電源投入手順、ライセンス情報、オペレーティング・システム情報、一般的なハードウェア情報を提供します。
ドキュメント・ディスク		全マニュアル（サービス・マニュアルを除く）のPDFファイル、プログラミング・サンプル・ファイル、アプリケーション・ノート
Agilent IOライブラリ・ディスク		PCと測定器との間のインタフェースを確立／設定するためのソフトウェア
光学式マウス		画面のメニュー選択を容易にする光学式USBマウス
Xシリーズ 測定ガイド		スペクトラム・アナライザ測定アプリケーション 以下のシグナル・アナライザ用： N9030A PXAシグナル・アナライザ N9020A MXAシグナル・アナライザ N9010A EXAシグナル・アナライザ N9000A CXAシグナル・アナライザ
電源ケーブル		測定器の電源の接続用

輸送時に問題が発生した場合

輸送用梱包材に損傷がある場合、または梱包内容が不足している場合：

- 計測お役様窓口までお問い合わせください。
- 輸送用梱包材は運送業者の検査のために保管しておいてください。
- アナライザをAgilent Technologiesに返送する場合は、元の（または同等の）輸送用梱包材を使用してください。「サービスのためのアナライザの返送」（113ページ）を参照してください。

測定器の配置とラック・マウントの要件

アナライザの配置

アナライザの側面にあるファン吸気口周辺と排気口周辺がふさがっていないことを確認してください。最低でも約5 cmの隙間が必要です。空気の流れが制限されると、気流ノイズが大きくなり、冷却用に十分な空気を取り込もうとしてファンの回転速度が上がります。このため、過度の可聴ノイズが発生します。

冷却とラック・マウント

アナライザをラックに搭載する際には、左右に通気口がある測定器の横に並べて配置しないでください。最初の測定器からの排気の向きが2番目のユニットの吸気口とずれていることを確認してください。最初の測定器からの加熱された空気が2番目の測定器に入ると、2番目のユニットの動作温度が過度に上昇し、測定器が破損するおそれがあります。アナライザは、空気を左側から取り込んで、右側から排出します。

注意

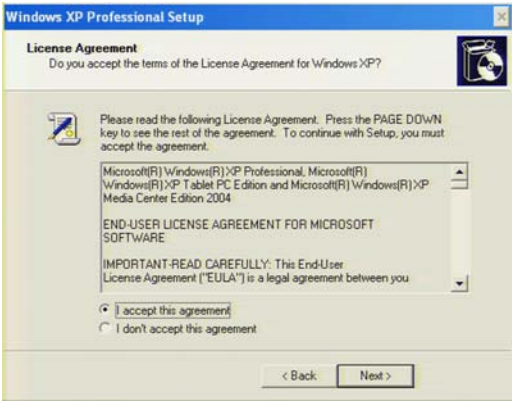
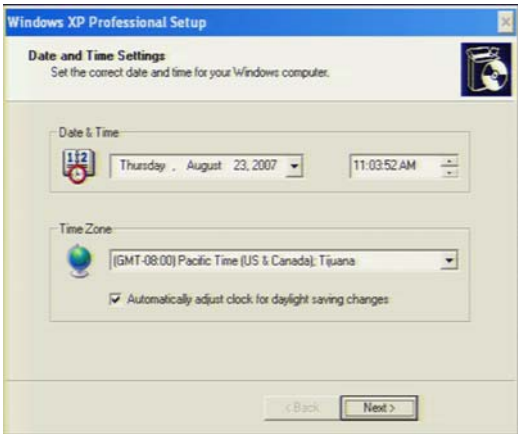
本器をキャビネット内に設置する場合、製品内部と外部の間の通気を妨げないようにしてください。周囲温度（キャビネット外部）は、キャビネット内での消費電力100 Wあたり4 °Cだけ製品の最大動作温度よりも低くなければなりません。キャビネット内の全消費電力が800 Wを超える場合は、強制空冷を使用する必要があります。

アナライザの電源を初めてオンにする場合

アナライザの電源を初めて投入する場合は、以下のいずれかの方法を用います。

- 「USBマウスを使ったアナライザの初期化」（12ページ）
- 「フロント・パネルのメニュー選択を使用したアナライザの初期化」（17ページ）

注記　初めて電源を投入すると、測定器は何度も電源が切れ、再起動を繰り返します。これは、初めてのインストール時に*だけ*発生します。

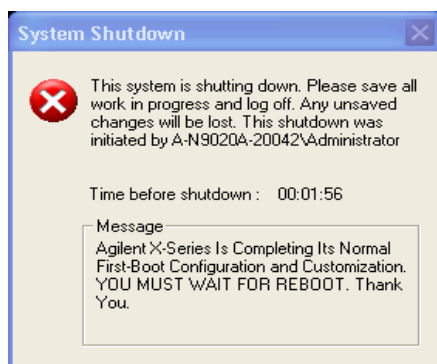
USBマウスを使ったアナライザの初期化

手順	操作	注記
1 マウスを接続します。	• マウスをアナライザのUSBポートの1つに接続します。	
2 アナライザの電源を投入します。	**a** 電源ケーブルにすぐに手が届く位置にアナライザを設置し、電源コードを差し込みます。 **b** 電源スイッチ（アナライザのフロント・パネルの左下コーナ）を押して、アナライザをオンにします。 Agilent Technologies画面に続いて、オペレーティング・システムの選択画面が表示されます。	• 詳細については、「測定器の配置とラック・マウントの要件」および「電源条件」（23ページ）を参照してください。 • アナライザの電源がオンになるのに5分以上かかります。これは、Windows XPのスタートアップ要件に左右されます。 Agilent Technologies • 現時点では、測定器をオフにしてからセットアップ・ウィザードを開始するのが安全です。
注意	セットアップ・ウィザードの起動後は、セットアップ・ウィザードが終了してシステムが再起動する前に、測定器をオフにしたり、電源を切り離したりしないでください。測定器をオフにすると、システムが破損され、アプリケーションが動作しなくなる可能性があります。	

手順	操作	注記
3 Microsoftセットアップ・ウィザードを起動します。	• Microsoft Windows XP Professionalを強調表示し、**Enter**を押してプリインストールされているオペレーティング・システムを起動します。	Please select the operating system to start: Microsoft Windows XP Professional (NORMAL STARTUP) * WELCOME TO THE AGILENT X-Series Signal Analyzer * * At this time, it is SAFE to turn off the instrument before starting * * the Setup Wizard. You MUST NOT turn off the instrument or remove * * power before the Setup Wizard completes and the system restarts. * * Doing so may result in system corruption and the application may * * not operate. Refer to the documentation for more information. * * Select Microsoft Windows XP Professional to proceed with the Setup * Use the up and down arrow keys to move the highlight to your choice. Press ENTER to choose. For troubleshooting and advanced startup options for Windows, press F8.
注記	• アナライザは、スタートアップ•ウィザードが開始する前に以下のステップを実行します。 　• Windows XPスタートアップ・ウィンドウ 　• ブラック・スクリーン 　• ブルーのメッセージ・ウィンドウ“Please wait while windows prepares to start” 　• ブルー・スクリーン 　• Windows XPセットアップ・ダイアログ・ボックス“Please Wait”	
4 Windows XP Professionalのセットアップを開始します。	• Windows XPセットアップ・ウィザード・ウィンドウが表示されたら、**Next**をクリックします。	• 使用許諾契約書ウィンドウが表示されます。
5 使用許諾契約書（EULA）に同意します。	• カーソルを合わせて、マウスの左ボタンを使用して、Windows XPの使用許諾契約書の条件に同意します。	 • Windows XPのインストールと設定を続行するには、この契約書に同意する必要があります。 この契約書に同意しないとアナライザがシャットダウンし、次回アナライザをオンにしたときにWindows XPセットアップ・ウィザードが最初の画面から始まります。

手順	操作	注記
6 システムの日付と時刻を設定します。	**a** カーソルを位置付け、マウスの左ボタンを使用して、日付と時刻設定画面を移動します。 **b** **Next**をクリックします。	

注記

時刻と日付画面を確定すると、Windows XPセットアップ・ウィザードが再開し、アナライザが2、3度再起動します。最初の再起動後に、以下のウィンドウが表示されます。

c **OK**をクリックします。

最後の再起動の前に、以下のウィンドウが表示されます。

手順	操作	注記

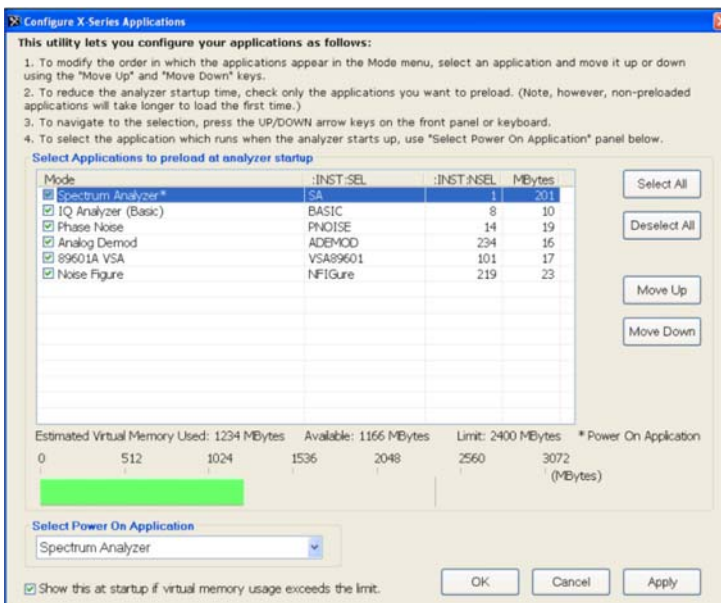
アナライザを再起動すると、以下のメッセージが表示されます。

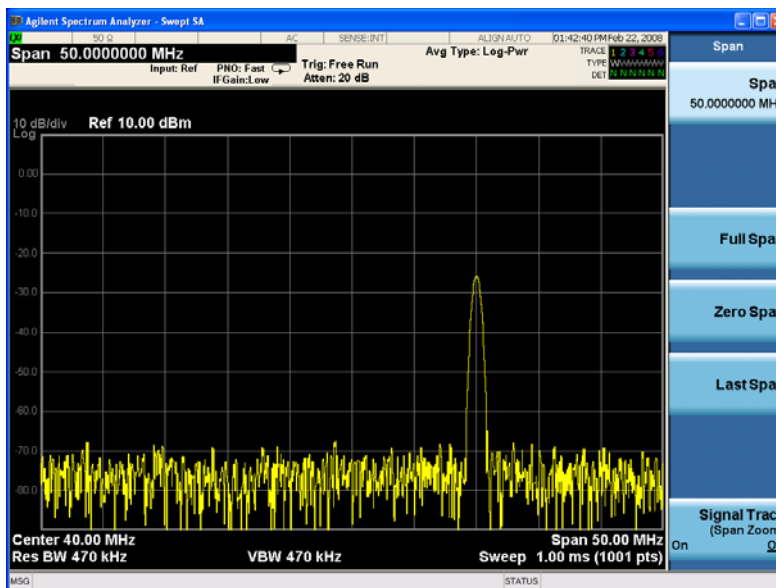
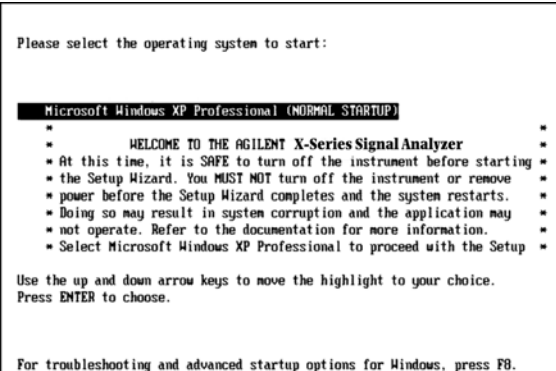
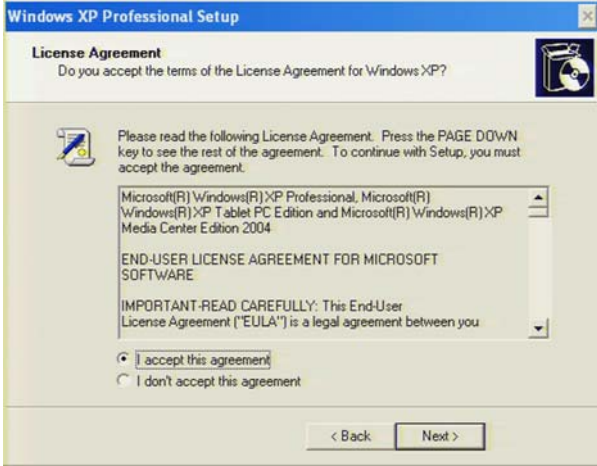
“Do not show this message again”チェック・ボックスにチェックを入れないと、アナライザの電源を入れるたびに、このメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間は、アプリケーションは開始されません。
続行する前に、ウィルス対策メッセージをよく読んで、適切な対策を決定してください。

7 ウィルス対策メッセージをオフにします。

- チェック・ボックスを選択し、**Continue**をクリックします。

8 起動時にプリロードするアプリケーションを設定します。

5個以上のアプリケーションをインストールした場合、以下のウィンドウが表示されることがあります。

プリロードしたいアプリケーションを選択し、**OK**をクリックします。

手順	操作	注記
9　インストールを確認します。	a　測定器の**System**、**Show**、**System**を押します。 b　購入したアプリケーションがリストに表示されていることを確認します。	• さらにサポートが必要な場合は、Agilentサポート・チームまでお問い合わせください。 オンライン・アシスタンス： http://www.agilent.co.jp/find/assist
10 信号を表示します。	a　**Input/Output**、**RF Calibrator**、**50 MHz**を押します。 b　**AMPTD Y Scale**、**10**、**dBm**を押します。 c　**FREQ Channel**、**Center Freq**、**40**、**MHz**を押します。 d　**SPAN X Scale**、**50**、**MHz**を押します。	• これにより、50 MHzの内部信号がアナライザの入力にルーティングされます。 • 基準レベルを10 dBmに設定します。
	50 MHzの基準信号がディスプレイ上に表示されます。 	

フロント・パネルのメニュー選択を使用したアナライザの初期化

初期化プロセスでは、以下のキーを使用します。

手順	操作	注記
1 アナライザの電源を投入します。	**a** 電源ケーブルにすぐに手が届く位置にアナライザを設置し、電源コードを差し込みます。 **b** 電源スイッチ（アナライザのフロント・パネルの左下隅）を押して、アナライザをオンにします。 Agilent Technologies画面に続いて、オペレーティング・システムの選択画面が表示されます。	• 詳細については、「測定器の配置とラック・マウントの要件」および「電源条件」（23ページ）を参照してください。 • アナライザの電源がオンになるのに5分以上かかります。これは、Windows XPのスタートアップ要件に左右されます。 • 現時点では、測定器をオフにしてからセットアップ・ウィザードを開始するのが安全です。
注意	セットアップ・ウィザードの起動後は、セットアップ・ウィザードが終了してシステムが再起動する前に、測定器をオフにしたり、電源を切り離したりしないでください。測定器をオフにすると、システムが破損され、アプリケーションが動作しなくなる可能性があります。	

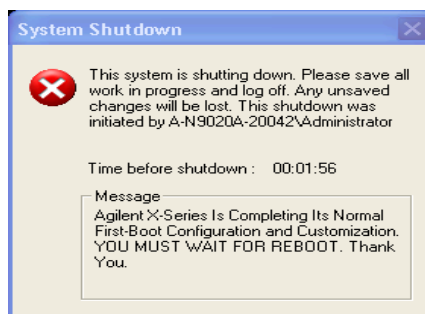
手順	操作	注記
2 Microsoftセットアップ・ウィザードを起動します。	• Microsoft Windows XP Professionalを強調表示し、**Enter**を押してプリインストールされているオペレーティング・システムを起動します。	Please select the operating system to start: Microsoft Windows XP Professional (NORMAL STARTUP) * WELCOME TO THE AGILENT X-Series Signal Analyzer * * At this time, it is SAFE to turn off the instrument before starting * * the Setup Wizard. You MUST NOT turn off the instrument or remove * * power before the Setup Wizard completes and the system restarts. * * Doing so may result in system corruption and the application may * * not operate. Refer to the documentation for more information. * * Select Microsoft Windows XP Professional to proceed with the Setup * Use the up and down arrow keys to move the highlight to your choice. Press ENTER to choose. For troubleshooting and advanced startup options for Windows, press F8.
注記	• アナライザは以下のステップを順に実行します。 • Windows XPスタートアップ・ウィンドウ • ブラック・スクリーン • ブルーのメッセージ・ウィンドウ“Please wait while windows prepares to start” • ブルー・スクリーン • Windows XPセットアップ・ダイアログ・ボックス“Please Wait”	
3 Windows XP Professionalのセットアップを開始します。	• Windows XPセットアップ・ウィザード・ウィンドウが表示されたら、**Enter**を押します。	• 使用許諾契約書ウィンドウが表示されます。
4 使用許諾契約書（EULA）に同意します。	**a** **Tab**キーを押して、ライセンス契約書テキスト・ボックスを選択します。 **b** 上向きと下向きの矢印キーを使用して、使用契約書をスクロールしてください。 **c** **Tab**キーを押して、使用契約同意チェック・ボックスを強調表示します。 **d** 矢印キーを使用して、使用契約に同意します。 **e** **Tab**キーを押して、ナビゲーション・ボタン (Back、Next)を強調表示します。 **f** 矢印キーを使用して、**Next**を強調表示します。 **g** **Enter**を押します。	• Windows XPのインストールと設定を続行するには、この契約書に同意する必要があります。 この契約書に同意しないとアナライザがシャットダウンし、次回アナライザをオンにしたときにWindows XPセットアップ・ウィザードが最初の画面から始まります。

手順	操作	注記
5 システムの日付と時刻を設定します。	a **Tab** キーを押して日付と時刻設定画面のアイテム間を移動します。 b 左向きと右向きの矢印キーを使用して、日付アイテムと時刻アイテムの間を移動します。 c 上向きと下向きの矢印キーを使用して、各アイテムの値をスクロールします。 d **Space**キーを使用して、“Automatically adjust clock for daylight saving changes!” チェック・ボックスを選択またはクリア（アクティブなアイテムの場合）します。 e **Enter**を押すか、**Tab**を押してから**Enter**を押して、Windows XPセットアップ・ウィザードを続行します。	

注記

時刻と日付画面を確定すると、Windows XPセットアップ・ウィザードが再開し、アナライザが2、3度再起動します。最初の再起動後に、以下のウィンドウが表示されます。

- **Enter**を押します。

最後の再起動の前に、以下のウィンドウが表示されます。

手順	操作	注記

注記

アナライザを再起動すると、以下のメッセージが表示されます。

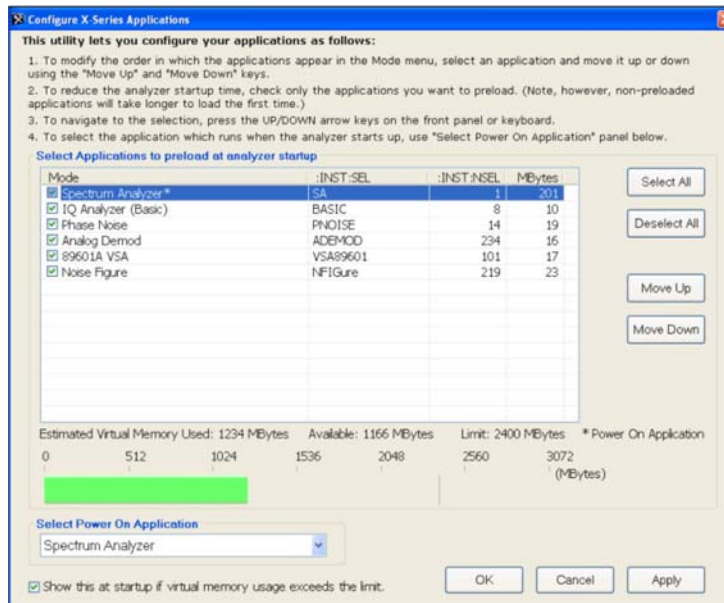
“Do not show this message again”チェック・ボックスにチェックを入れないと、アナライザの電源を入れるたびに、このメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間は、アプリケーションは開始されません。

注記　続行する前に、ウィルス対策メッセージをよく読んで、適切な対策を決定してください。

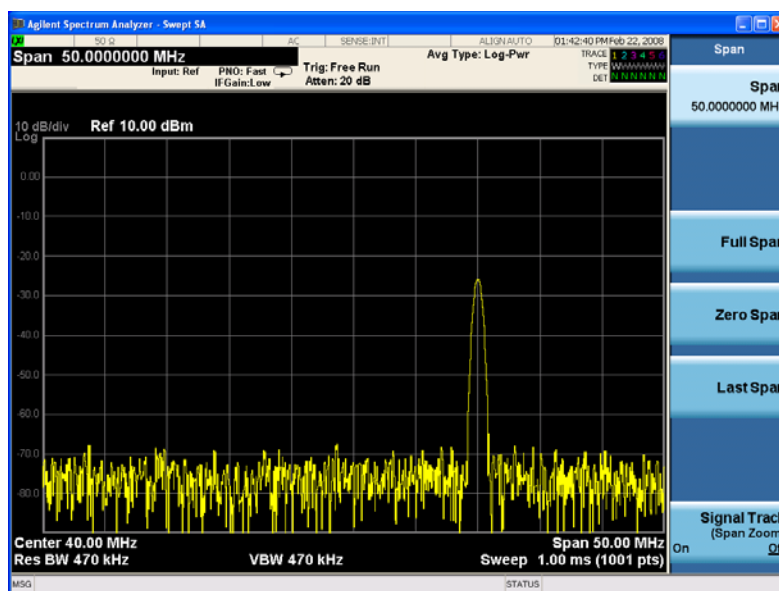
6 ウィルス対策メッセージをオフにします。

a **Select**を押してチェック・ボックスを選択し、**Enter**を押して続行します。

7 起動時にプリロードするアプリケーションを設定します。

5個以上のアプリケーションをインストールした場合、以下のウィンドウが表示されることがあります。

a **Tab**キーを使用し、**Select**を押して、プリロードするアプリケーションを選択します。

b **Enter**を押します。

手順	操作	注記
8　インストールを確認します。	**a** **System**、**Show**、**System**を押します。 **b** 購入したアプリケーションがリストに表示されていることを確認します。	• さらにサポートが必要な場合は、Agilentサポート・チームまでお問い合わせください。 オンライン・アシスタンス： http://www.agilent.co.jp/find/assist
9　信号を表示します。	**a** **Input/Output**、**RF Calibrator**、**50 MHz**を押します。 **b** **AMPTD Y Scale**、**10**、**dBm**を押します。 **c** **FREQ Channel**、**Center Freq**、**40**、**MHz**を押します。 **d** **SPAN X Scale**、**50**、**MHz**を押します。	• これにより、50 MHzの内部信号がアナライザの入力にルーティングされます。 • 基準レベルを10 dBmに設定します。
	50 MHzの基準信号がディスプレイ上に表示されます。	

ウィルス対策ソフトとファイアウォール

アナライザにはウィルス対策ソフトが付属していません。アナライザをLANに接続している場合は、ウィルス対策ソフトをインストールしてください。社内IT部門のアドバイスを受けてください。

アナライザは、Windows XPのファイアウォールを有効にした状態で出荷されています。アナライザのオペレーティング・システムに問題が生じるおそれがあるので、デフォルトのネットワーク設定を変更しないでください。

測定器の電源投入時間の短縮

測定器のデスクトップに、測定器の電源投入設定を制御できるConfigureApplications.exeアプリケーションへのショートカットがあります。通常実行するアプリケーションだけをプリロードするように設定できます。これにより、測定器の電源投入にかかる時間を大幅に短縮できます。以下を押すことにより、この機能にアクセスすることもできます：**System**、**Power On**、**Configure Applications**。

プリロードしなかったアプリケーションに電源投入後にアクセスする場合は、アプリケーションのソフトキーを押してから表示されるまでの時間が少し長くなります。このように時間が長くなるのは、電源投入後の最初のアクセスの時だけです。最初のアクセス後のモード（アプリケーション）切り替えの動作速度は、アプリケーションをプリロードした場合と同じです。

測定器情報

電源条件

Agilentシグナル・アナライザの物理的設置に必要なことは、電源を接続することだけです。電源電圧を選択する必要はありません。

本器にはユーザ交換可能なヒューズは*ありません*。

警告

本器は安全クラス1の製品（電源ケーブルに感電防止用アースを装備）です。電源プラグは必ず、感電防止用アース端子を備えたコンセントに挿入してください。製品内部または外部のアース導線がつながっていないと、製品による危険が生じるおそれがあります。意図的に接続しないことは禁止されています。（IEC 348 clauses 17.3.3cおよび17.3.4）

アナライザを正しくアースしないと、怪我のおそれがあります。アナライザの電源をオンにする前に、感電防止用アース端子を電源ケーブルの感電防止用アース線に接続してください。電源プラグは必ず、感電防止用アース端子を備えたコンセントに挿入してください。感電防止用アース線を持たない延長ケーブル、電源ケーブル、オートトランスなどを使用することは避けてください。

注意

本製品は、IEC 61010 Second Editionに基づくインスタレーション・カテゴリIIおよびIEC 664に基づく汚染度2で使用するように設計されています。測定器にはオートレンジ電源電圧入力があります。電源電圧が指定された範囲内にあることを確認してください。

主電源の配線とコネクタは、施設電気系統で用いられるコネクタと互換性がなければなりません。正しいコンポーネントを使用していないことによる不適切なアースは、製品の損傷や深刻な怪我の原因となります。

AC電源ケーブル

本器には、国際安全規格に適合する3極電源ケーブルが付属しています。このケーブルは、適切な電源コンセントに接続された場合にアナライザのキャビネットをアースします。本器には送付先の地域に合わせた電源ケーブルが同梱されています。以下を参照してください。

http://www.agilent.co.jp/find/powercords

注意 必ず本器に付属する3極AC電源ケーブルを使用してください。このケーブルを使用せず、アースが不十分な場合、製品の損傷を招くおそれがあります。

警告 本製品を指定された以外の方法で使用すると、機器の保護機構が損なわれるおそれがあります。本製品は必ず、正常な条件（すべての保護機構が有効な状態）で使用してください。
測定器を設置する際には、着脱式電源ケーブルがオペレータから容易に認識でき、すぐに手が届くように設置してください。着脱式電源ケーブルは、本測定器の断路装置です。これは測定器の他の部品の前で電源回路を電源から切り離す役割を果たします。フロント・パネルのスイッチはスタンバイ・スイッチです。電源スイッチではありません。別の方法として、外部のスイッチまたはサーキット・ブレーカ（オペレータから容易に認識でき、すぐに手が届くもの）を断路装置として使用することもできます。

測定器の保守

測定器の清掃

警告 感電事故を防ぐため、清掃の前にはシグナル・アナライザを主電源から切り離してください。乾いた布または水でわずかに湿らせた布を使って、外装を清掃してください。内部は清掃しないでください。

コネクタの清掃

コネクタをアルコールで清掃する場合は、測定器の電源ケーブルを取り外して、通気のよい場所で行ってください。残留アルコール分が完全に蒸発し、蒸気がなくなるまで待ってから、測定器に電力を供給してください。

警告

イソプロピル・アルコールは、熱、火花、火炎の近くに置かないでください。厳重に密閉された容器で保管してください。イソプロピル・アルコールは可燃性の高い物質です。火事になった場合は、アルコール泡消化剤、粉末薬品または二酸化炭素を使用してください。水では消火できない場合があります。

イソプロピル・アルコールは通気のよい場所で使用し、目、皮膚、衣類に触れないようにしてください。皮膚のかぶれや目の損傷を引き起こす場合があります。また、吸飲／吸入すると有害です。皮膚を通して吸収した場合には、害が生じるおそれがあります。使用後は、よく洗ってください。

こぼした場合には、砂や土に吸収させてください。こぼした場所を水で洗い流してください。

イソプロピル・アルコールは、該当する連邦、州、地域の環境規制に従って廃棄してください。

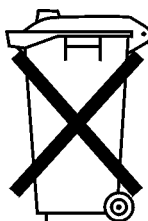
バッテリ情報

アナライザは、CPUボードに配置されたリチウム電池を使用します。これは、オペレータが交換可能な部品ではありません。「サービスのためのアナライザの返送」（113ページ）を参照してください。交換部品は、Agilent Technologiesが承認または供給する部品でなければなりません。

測定器のサービス・ドキュメントを計測お客様窓口にオーダできます。

警告

バッテリを正しく交換しないと、爆発のおそれがあります。必ず同一または推奨される同等種類のものと交換してください。使用済みのバッテリを廃棄する際には、メーカの指示に従ってください。

バッテリは一般ゴミでなく、小形化学廃棄物として廃棄してください。

DO NOT THROW BATTERIES AWAY BUT
COLLECT AS SMALL CHEMICAL WASTE.

静電放電に対する保護

静電放電（ESD）は、電子部品の損傷や破壊を招くおそれがあります（ESDによる目に見えない損傷は、コンポーネントの輸送、保管、使用のあらゆる場面で起こる可能性があります)。

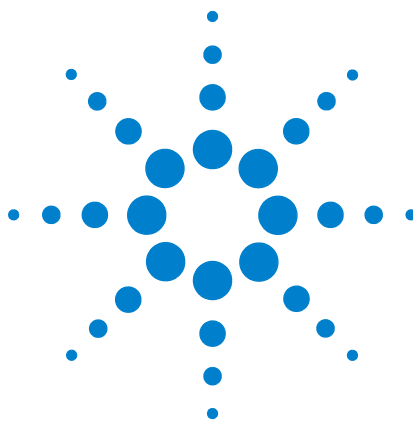
テスト機器とESD

テスト機器使用中のESDによる損傷を防ぐには：

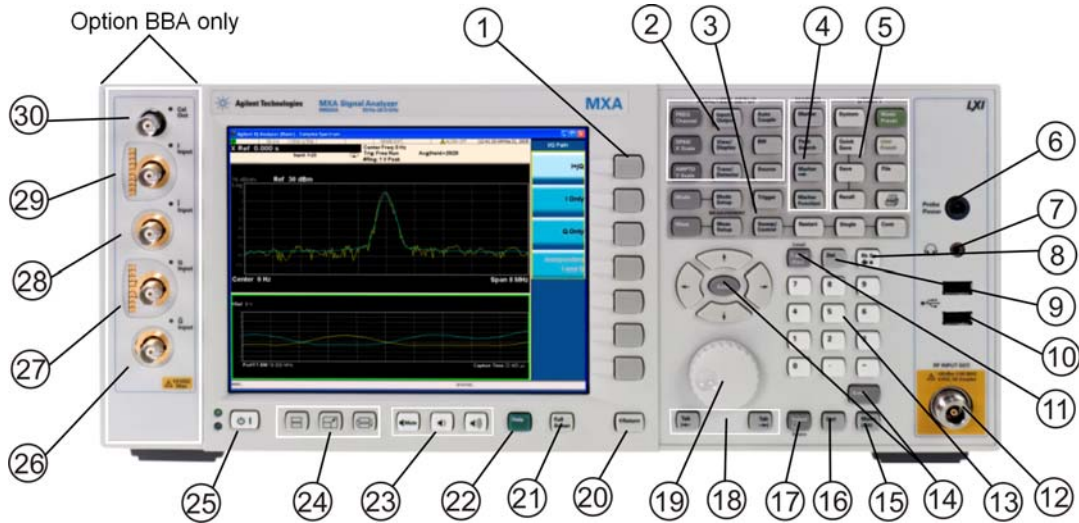
警告　**電圧が500 Vより高い回路を操作する際には、以下の最初の3つの方法は使用しないでください。**

- 同軸ケーブルを一日の最初にアナライザに接続する際には、ケーブルの中心導体と外部導体を一度短絡させてください。
- コネクタの中心ピンに触れる際、およびアナライザからアセンブリを取り外す際には、1 MΩの抵抗で絶縁したリスト・ストラップで作業者の体をアースする必要があります。
- 静電気の蓄積を防ぐため、すべての機器を正しくアースしてください。
- コンポーネントやアセンブリの操作は、静電気防止作業台の上で行ってください。
- 静電気を発生する材料は、すべてのコンポーネントから少なくとも1 m離しておいてください。
- コンポーネントの保管や輸送の際には、静電気遮蔽容器を使用してください。
- プリント基板アセンブリは必ず縁を持って取り扱ってください。これは、ESDによるコンポーネントの損傷と、めっきの汚染を避けるためです。

ESDに関する詳細情報

ESDと、ESDによる損傷を避ける方法の詳細については、Electrostatic Discharge Association（http://www.esda.org）に問い合わせてください。この機関が開発したESD規格は、ANSI (American National Standards Institute) によって承認されています。

2
フロント・パネルとリア・パネルの機能

このセクションでは、以下の機能について説明します。

フロント・パネルの機能

アイテム		説明
#	名前	
1	メニュー・キー	各メニュー・キーの現在の機能を示すために、キーの左側にキー・ラベルが表示されます。表示される機能は現在選択しているモードと測定に依存し、直前に押したキーに直接関連します。
2	アナライザ・セットアップ・キー	これらのキーは、現在のモードと測定で測定の実行に使用するパラメータを設定します。
3	測定キー	これらのキーで、モードと、モード内の測定を選択します。測定の開始と繰り返し回数も制御します。
4	マーカ・キー	マーカは、現在の測定データのレンジ内にある特定のポイント／セグメントのデータを表示するために使用できます。
5	ユーティリティ・キー	これらのキーは、以下のようなシステム全体の機能を制御します。 • 測定器の設定情報とI/Oセットアップ • プリンタのセットアップと印刷 • ファイルの管理、保存、呼び出し • 測定器のプリセット
6	プローブ・パワー	外部高周波プローブとアクセサリに対する電力を供給します。
7	ヘッドフォン出力	ヘッドフォンは、利用可能なオーディオ出力を聞くために使用できます。
8	バックスペース・キー	英数字情報を入力する際には、このキーを押して前の文字を削除します。ヘルプ・ウィンドウとExplorerウィンドウではバック・キーとしても機能します。
9	削除キー	このキーは、ファイルの削除やその他の削除作業を実行するために押します。

アイテム		説明
#	名前	
10	USBコネクタ	標準USB 2.0ポート、タイプA。マウス、キーボード、DVDドライブ、ハードドライブなどの外部周辺機器に接続します。
11	Local/Cancel/(Esc) キー	リモート操作になっている場合は、Localを押すと、 • 測定器の制御がリモートからローカル（フロント・パネル）に戻ります。 • ディスプレイがオンになります（リモート操作のためオフになっていた場合）。 • エラーをクリアできます （キーを1回押すとローカル制御に戻ります。2回目を押すとエラー・メッセージ行をクリアします）。 単位またはEnterキーをまだ押していない場合は、Cancelを押すと、値を変更せずに現在選択している機能を終了します。 Escの機能は、PCキーボードの場合と同じです。Escを押して、 • Windowsダイアログを終了します。 • エラーをクリアします。 • 印刷を中止します。 • 操作をキャンセルします。
12	RF入力	外部信号の入力用コネクタ。アナライザに入力されるすべての信号のパワーの総和は+30 dBm (1 W) を超え*ない*ようにしてください。
13	テンキー	現在の機能に対して特定の数値を入力します。入力は、ディスプレイの左上の測定情報エリアに表示されます。
14	Enterキーと矢印キー	測定単位が不要な場合、またはデフォルトの単位を使用する場合に、Enterキーでデータ入力を終了します。 矢印キーを使用して、 • 現在の測定選択の値を増減します。 • ヘルプ項目を移動します。 • Windowsダイアログ内で移動、または選択を行います。 • 測定のセットアップに使用するフォーム内を移動します。 • 表内を移動します。 **注記**　矢印キーを、ディスプレイでマウス・ポインタを移動するために使用することはできません。
15	Menu/ (Alt) キー	Altの機能はPCキーボードの場合と同じです。Windowsプルダウン・メニューで制御フォーカスを変更するために使用します。
16	Ctrlキー	Ctrlの機能はPCキーボードの場合と同じです。Windowsアプリケーション内の移動、またはリストの複数アイテムの選択に使用します。
17	選択／スペース・キー	選択キーは、スペース・キーでもあります。キーには通常のPC機能があります。例えば、Windowsダイアログで、ファイルの選択、チェック・ボックスのチェックとチェック解除、ラジオ・ボタン選択を実行します。強調表示されたヘルプ・トピックを開きます
18	タブ・キー	Windowsダイアログ内のフィールド間の移動に使用します。
19	ノブ	現在のアクティブ機能の値を増減します。
20	リターン・キー	現在のメニューを終了し、前のメニューに戻ります。通常のPC機能があります。

アイテム		説明
#	名前	
21	全画面キー	格子線表示領域を最大化するために、このキーを押してソフトキーをオフにします。 通常表示を復元するには、このキーを再度押します。
22	ヘルプ・キー	現在のモードのコンテキスト依存ヘルプの表示を開始します。ヘルプが表示されている場合、フロント・パネル・キーを押すと、そのキー機能に対するヘルプ項目が表示されます。
23	スピーカ制御キー	スピーカの音量の増減や、ミュート設定が行えます。
24	ウィンドウ制御キー	これらのキーにより、単一ウィンドウ表示または複数ウィンドウ表示を選択します。現在のウィンドウをデータ表示一杯に拡大するか、現在選択しているウィンドウを変更します。ヘルプ・ウィンドウのナビゲーション枠と項目枠の切り替えに使用できます。
25	電源スタンバイ／オン	アナライザをオンにします。緑のライトは電源オンを示します。黄色のライトはスタンバイ・モードを示します。 **注記**　フロント・パネルのスイッチはスタンバイ・スイッチであり、電源スイッチ（断路装置）では*ありません*。スイッチがスタンバイ位置にある間も、アナライザは電力を消費しています。 電源ケーブルをシステム断路装置として使用することができます。電源ケーブルは、電源回路を電源から切り離す役割をします。
26	$\overline{\mathrm{Q}}$ Input	差動モード時の$\overline{\mathrm{Q}}$チャネルの入力ポート。*
27	Q Input	シングル・モードまたは差動モードの場合のQチャネルの入力ポート。*
28	$\overline{\mathrm{I}}$ Input	差動モード時の$\overline{\mathrm{I}}$チャネルの入力ポート。*
29	I Input	シングル・モードまたは差動モードの場合のIチャネルの入力ポート。*
30	Cal Out	I、$\overline{\mathrm{I}}$、Q、$\overline{\mathrm{Q}}$入力およびこれらの入力で使用されているプローブの校正用の出力ポート。*

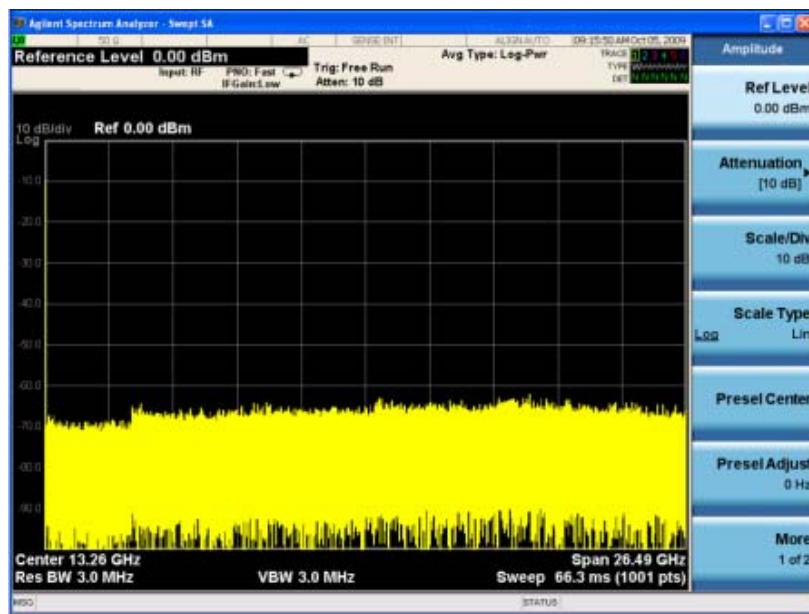
* LED のステータスは、ポートの現在の状態がアクティブ（緑）であるか、未使用（暗黒）であるかを示します。

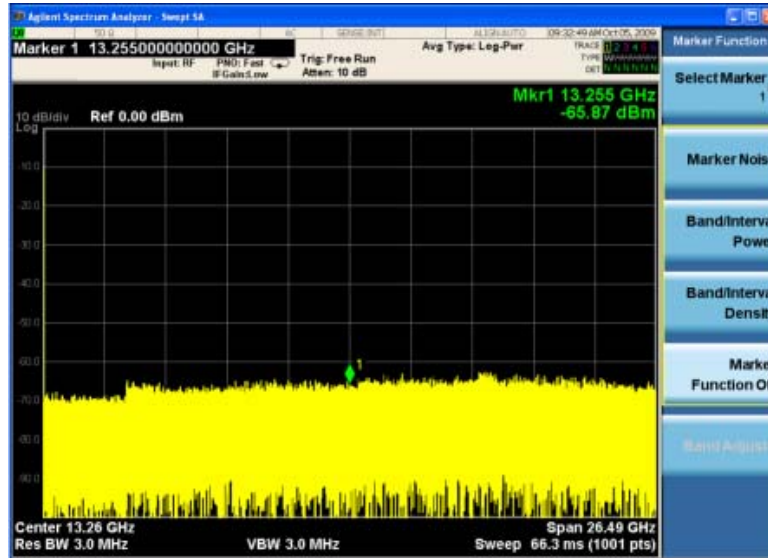
キー・タイプの概要

FREQ Channel、**System**、**Marker Functions**などと記されたキーは、すべてフロント・パネル・キーの例です。

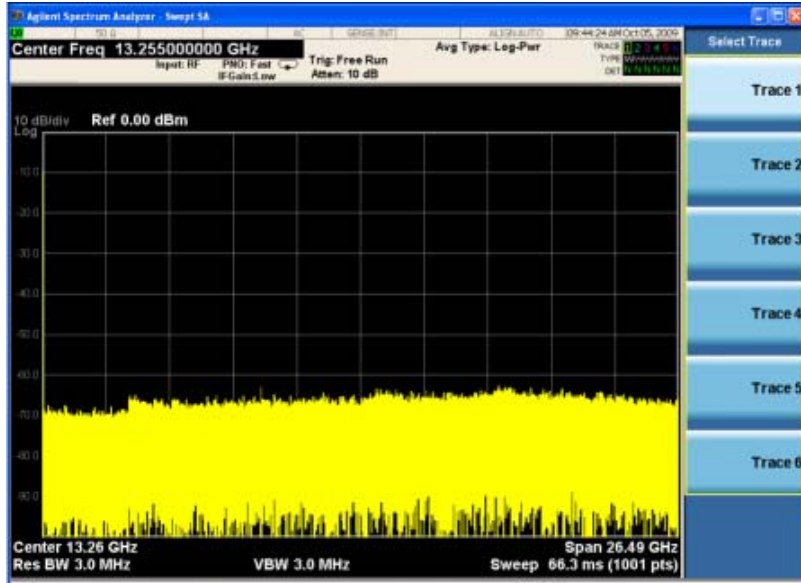
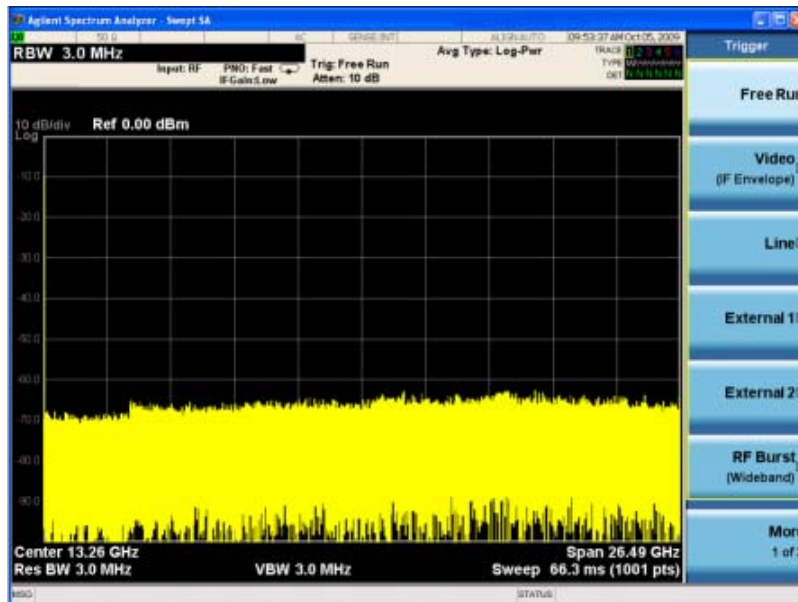
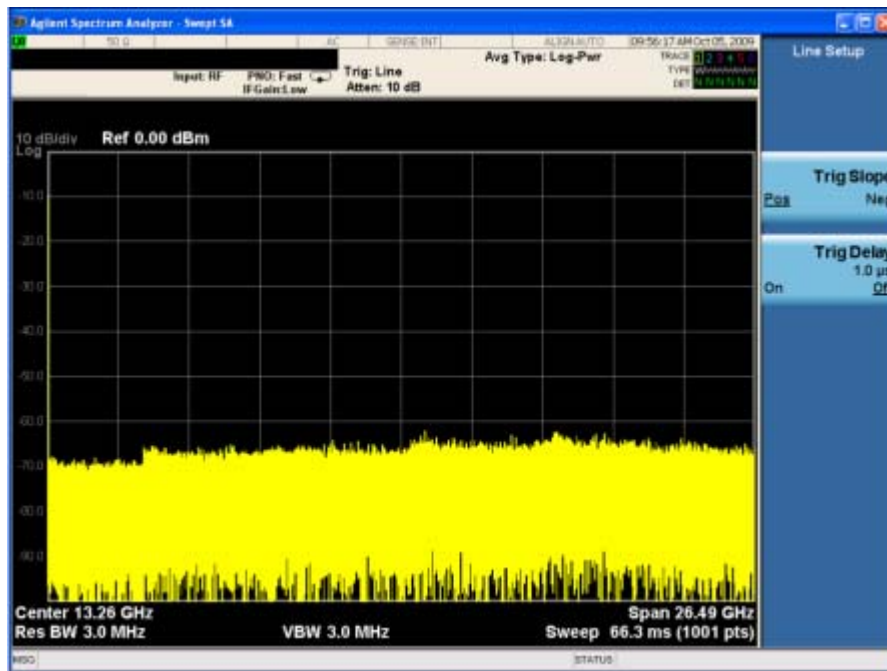
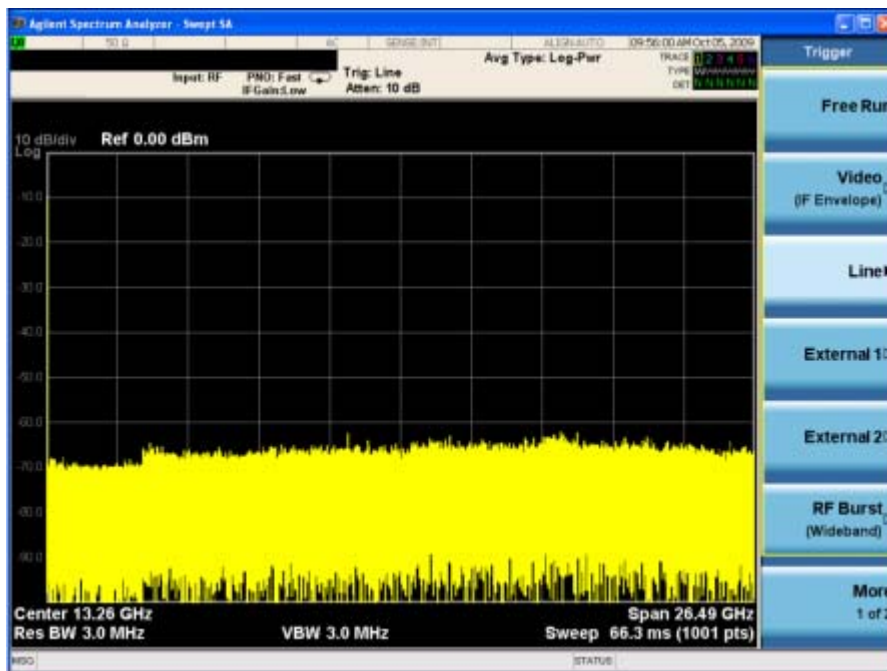
ダーク・グレーまたはライト・グレーのキーを押すと、ほとんどの場合、ディスプレイの右端に沿って機能のメニューが表示されます。これらの表示されるキー・ラベルは、メニュー・キーと呼ばれるキーの列の横にあります。

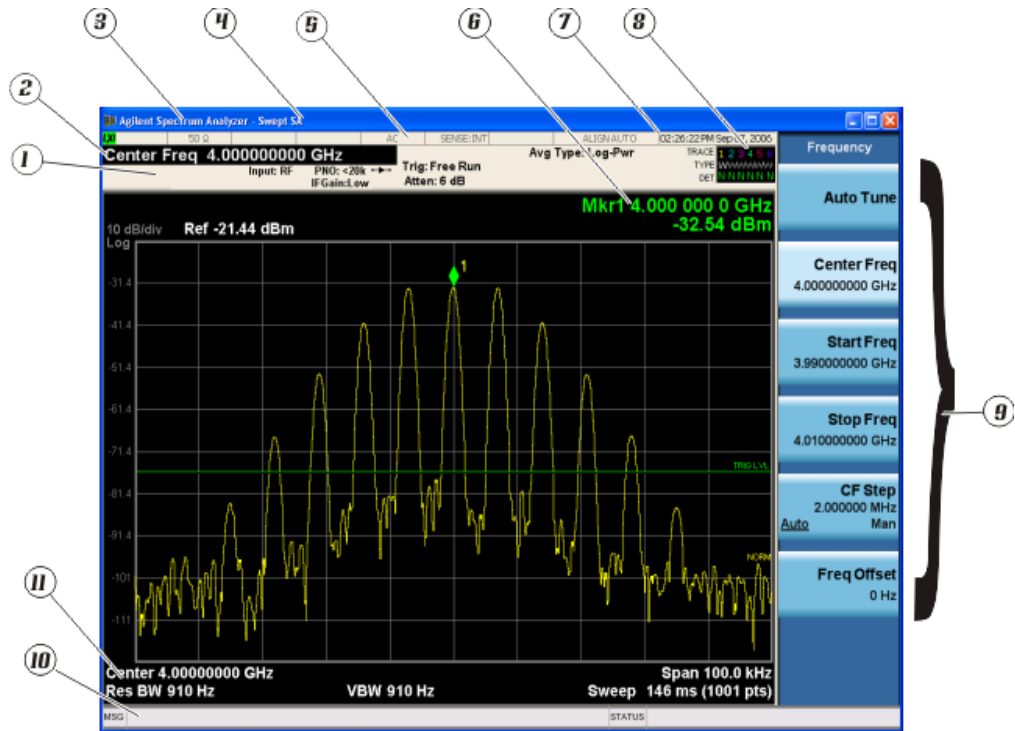
メニュー・キーは、最後に押されたフロント・パネル・キーに基づいて機能を表示します。これらの機能は、測定アプリケーション（**Mode**）と測定（**Meas**）の現在の選択にも依存します

メニュー・キー機能の数値を変更できる場合は、アクティブ機能と呼びます。アクティブ機能のキーを選択すると、その機能のラベルが強調表示されます。例えば、**AMPTD Y Scale**を押すと、関連する振幅機能のメニューが表示されます。**Ref Level**（Amplitudeメニューのデフォルト選択キー）という機能が強調表示されています。**Ref Level**は、ディスプレイの左上の測定情報エリアにも表示されます。表示された値は、機能が選択されていて、その値がデータ入力コントロールを使って変更可能であることを示します。

一部のメニュー・キーには、**On/Off**、**Auto/Man**、**Log/Lin**など（上を参照）、ラベルに複数の選択肢があります。別の選択肢を選択するには、キーを複数回押します。例えば、Auto/Manタイプのキーです。機能を選択するには、メニュー・キーを押します。Autoに下線が表示され、キーが強調表示されます。機能を手動に変更するには、キーを再度押してManに下線が表示されるようにします。キーに3つ以上の設定がある場合は、必要な選択に下線が表示されるまでキーを押し続けます。

メニューを初めて表示すると、デフォルト選択のキーであることを示すため、1個のキー・ラベルが強調表示されます。**Marker Function**を押した場合は、**Marker Function Off**キーがデフォルト・キーなので強調表示されます。

一部のメニュー・キーは、左側のキーの後ろを走る黄色のバー、またはキー・グループの周囲の黄色の境界線によってグループ化されています。黄色の領域内にあるキー（**Marker Noise**など）を押すと、キーが選択されたことを示すため、強調表示がそのキーに移動します。リンクされているキーは関連機能で、常に選択できるキーはそのうち1つだけです。例えば、マーカは1つのマーカ機能だけをアクティブにできます。このため、別の機能を選択した場合は、前の選択がオフになります。現在のメニューが2ページに渡る場合、黄色のバーまたは境界線には2ページ目のキーも含まれている可能性があります。

一部のキー・メニューでは、複数の使用可能な選択肢からどのキーが選択されているかを示すため、キー・ラベルが強調表示されます。その他のキーのいずれかを押すと、メニューが即座に終了します。例えば、**Select Trace**キー（**Trace/Detector**メニュー）を

押すと、独自のキー・メニューが表示されます。**Trace 1**キーが強調表示されます。**Trace 2**キーを押すと、そのキーに強調表示が移動し、画面が**Trace/Detector**メニューに戻ります。

表示されたキー・ラベルに、右向きの、小さい黒塗りの矢印の先が示されている場合は、追加のキー・メニューが使用できることを示します。矢印の先が黒塗りでない場合、初めてキーを押すと、その機能が選択されます。矢印が黒塗りになり、再度キーを押すと、追加の設定メニューが表示されます。

表示注釈

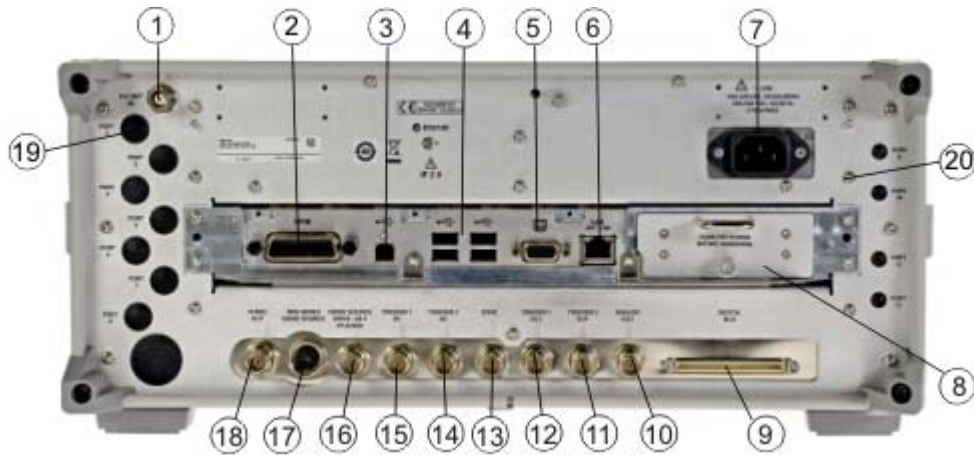
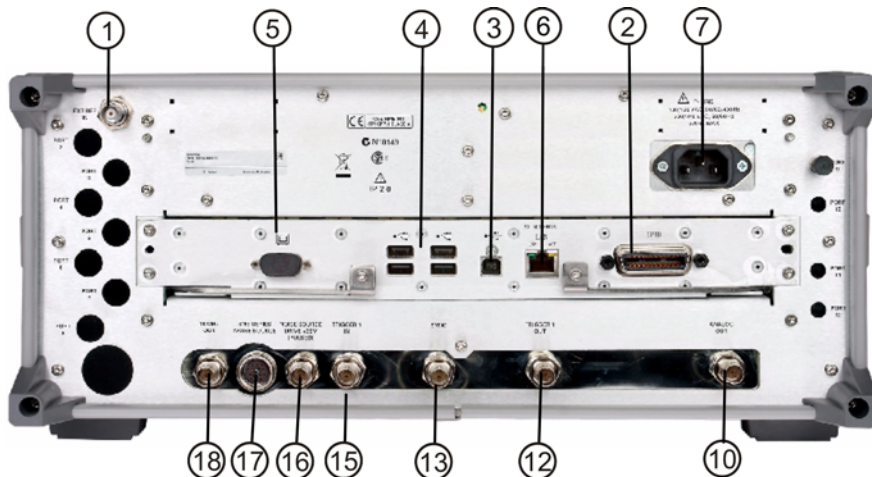
このセクションでは、スペクトラム・アナライザ測定アプリケーションの画面に示される表示注釈について説明します。測定アプリケーションのモードによって注釈に違いがあります。

アイテム	説明	ファンクション・キー
1	測定バー：一般的な測定の設定と情報を示します。 単発／連続測定を示します。 一部の測定には、データのテストの基準となるリミットが含まれます。合否インジケータは、測定バーの左下に表示されます。	フロント・パネルのAnalyzer Setup部のすべてのキー
2	アクティブ機能（測定バー）：現在のアクティブ機能に設定可能な数値がある場合は、ここに表示されます。	現在選択しているフロント・パネル・キー
3	バナー：現在実行中の選択したアプリケーションの名前を示します。	**Mode**
4	測定タイトル：現在の測定のタイトル情報、または測定用に作成したタイトルを示します。	**Meas** **View/Display**、**Display**、**Title**

アイテム	説明	ファンクション・キー
5	設定パネル：アプリケーション固有でないシステム情報を表示します。 • 入力／出力ステータス：緑色のLXIは、LANが接続されていることを示します。RLTSは、Remote、Listen、Talk、SRQを表します。 • 入力インピーダンスと結合 • 振幅補正状態 • 周波数基準選択 • 自動内部アライメント・ルーチンの設定	**Local**および**System, I/O Config** **Input/Output**、**Amplitude**、**System**、その他
6	アクティブ・マーカの周波数、振幅、または機能の値	**Marker**
7	設定パネル：時刻と日付表示	**System**、**Control Panel**
8	トレース／ディテクタ情報	**Trace/Detector**、 **Clear Write (W) Trace Average (A)** **Max Hold (M) Min Hold (m)** **Trace/Detector**、 **More**、 **Detector**、 **Average (A) Normal (N) Peak (P)** **Sample (S) Negative Peak (p)**
9	直前に押したキーに基づいて変化するキー・ラベル	ソフトキー
10	情報メッセージ、警告メッセージ、エラー・メッセージを表示します。メッセージ領域：単発イベント、ステータス領域：条件	**System**、**Show**、**Errors**
11	格子線領域に現在表示中のデータの測定設定。上の例：中心周波数、分解能帯域幅、ビデオ帯域幅、周波数スパン、掃引時間、掃引ポイント数	フロント・パネルのAnalyzer Setup部のキー

リア・パネル機能

PXA、MXA、EXA（オプションPC2搭載）

EXA

CXA

<table>
<tr><th colspan="2">アイテム</th><th rowspan="2">説明</th></tr>
<tr><th>#</th><th>名前</th></tr>
<tr><td>1</td><td>EXT REF IN</td><td>外部周波数基準信号の入力：
PXA：1～50 MHz
MXA：1～50 MHz
EXA：10 MHz
CXA：10 MHz</td></tr>
<tr><td>2</td><td>GPIB</td><td>リモート・アナライザ操作に使用できるGeneral Purpose Interface Bus（GPIB、IEEE 488.1）接続</td></tr>
<tr><td>3</td><td>USBコネクタ</td><td>USB 2.0ポート、タイプB。USB TMC（test and measurement class）を外部PCコントローラに接続して測定器を制御。480 Mbpsリンクのデータ転送用</td></tr>
<tr><td>4</td><td>USBコネクタ</td><td>標準USB 2.0ポート、タイプA。マウス、キーボード、プリンタ、DVDドライブ、ハードドライブなどの外部周辺機器に接続します。</td></tr>
<tr><td>5</td><td>MONITOR</td><td>外部VGAモニタの接続が可能</td></tr>
<tr><td>6</td><td>LAN</td><td>リモート・アナライザ操作に使用するためのTCP/IPインタフェース</td></tr>
<tr><td>7</td><td>電源入力</td><td>AC電源ライン接続。詳細については製品仕様を参照してください。</td></tr>
<tr><td>8</td><td>リムーバブル・ディスク・ドライブ</td><td>PXA/MXAに標準装備。EXAではオプション。</td></tr>
<tr><td>9</td><td>デジタル・バス</td><td>将来用に確保</td></tr>
<tr><td>10</td><td>アナログ出力</td><td>PXAオプションYAV：
Screen Video
Log Video
Linear Video
PXAオプションEMC：
Demod Audio</td></tr>
<tr><td>11</td><td>TRIGGER 2 OUT</td><td>他のテスト機器をアナライザと同期するために使用するトリガ出力
Input/Outputキーから設定可能</td></tr>
<tr><td>12</td><td>TRIGGER 1 OUT</td><td>他のテスト機器をアナライザと同期するために使用するトリガ出力
Input/Outputキーから設定可能</td></tr>
<tr><td>13</td><td>Sync</td><td>将来のための予備</td></tr>
<tr><td>14</td><td>TRIGGER 2 IN</td><td>測定の外部トリガを可能にします。</td></tr>
<tr><td>15</td><td>TRIGGER 1 IN</td><td>測定の外部トリガを可能にします。</td></tr>
</table>

アイテム		説明
#	名前	
16	Noise Source Drive +28 V (Pulsed)	Agilent 346A/346B/346C ノイズ・ソース用
17	SNS Series Noise Source	Agilent N4000A/N4001A/N4002A スマート・ノイズ・ソース (SNS) 用
18	10 MHz OUT	アナライザの内部10 MHz周波数基準信号の出力。他のテスト機器の周波数基準をアナライザにロックするために使用します。
19	Preselector Tune Out	将来のための予備
20	Aux IF Out	PXAオプション： CR3 Second IF Out CRP Arbitrary IF Out ALV Log Video

フロント・パネルとリア・パネルの記号

この記号は、パワー・オン（緑色のLED）を示すために用いられます。

この記号は、パワー・スタンバイ・モード（黄色のLED）を示すために用いられます。

この記号は、AC電源ラインが必要であることを示します。

取扱説明書記号。製品にこの記号が記載されている場合、ユーザがドキュメントの内容を参照する必要があることを示します。

CEマークは、ヨーロッパ共同体の登録商標です。

N10149

C-Tickマークは、オーストラリアのスペクトラム管理局の登録商標です。

ICES/NMB-001
ISM GRP.1 CLASS A

このマークは、製品がCanadian Interference-Causing Equipment Standard（ICES-001）に適合することを示します。

この記号は、Industrial Scientific and Medicalグループ1クラスA製品（CISPR 11、Clause 4）であることも表します。

CSAマークは、CSA Internationalの登録商標です。

この記号は、2005年8月13日現在、EU法により電気／電子機器の分別収集が義務づけられていることを示します。すべての電気／電子機器は、通常の廃棄物と別に処理する必要があります (Reference WEEE Directive 2002/96/EC)。

通常使用中に危険／有害物質成分が漏出または劣化するはずのない期間を示します。本製品の予想耐用年数は40年です。

すべての1次/2次梱包に記されているこの記号は、中国規格GB 18455-2001に準拠していることを示します。

不要になった製品の回収については、計測お客様窓口までお問い合わせいただくか、http://www.agilent.co.jp/environment/product/を参照してください。

3
測定器のオペレーティング・システム

この章では、Microsoft Windows XPの設定と、Agilent測定器ソフトウェアで使用される設定について説明します。また、システム設定の変更についても説明します。さらに、Windowsオペレーティング・システムの設定と測定器の出荷時にハードディスク・ドライブに存在するソフトウェア・インストールについても説明します。

アナライザのフロント・パネルには、ウィンドウを移動するために必要なキー（メニューへのアクセス、ダイアログ内の移動、アイテムの選択、表示ボタンの選択用）が備わっています。Windows XPの設定アイテムの変更にはフロント・パネルを使用できますが、これらの作業はUSBマウスと外部キーボードを使用した方がはるかに簡単に行えます。フロント・パネルを使用した移動については、「マウスがない場合のWindowsの移動」（74ページ）を参照してください。

この章では、以下のトピックスについて説明します。

インストールされているAgilentソフトウェア

Agilentシグナル・アナライザ・ソフトウェア

シグナル・アナライザ測定には、N9060A Agilentスペクトラム・アナライザ測定アプリケーション・ソフトウェアがインストールされています。その他の測定アプリケーションも使用できます。アプリケーションごとに、ソフトウェアを実行するためのライセンスが必要となります。ライセンスが購入されていない場合でも、すべてのアプリケーションが製造時に工場でインストールされます。追加のライセンスは、後から購入可能です。

Agilent 89601A

Agilent 89601Aベクトル・シグナル・アナライザ (VSA) がインストールされています。Agilent 89601A測定では、14日間の試用期間を超えて製品を使用する場合は、ライセンスが必要です。

ソフトウェアのカスタマ・インストール

Agilentによって検証済みのサードパーティ・ソフトウェア

Agilentでは、以下のプログラムが測定器アプリケーションと互換性があることを確認しています。

- Symantec AntiVirus™ Corporate Editionバージョン10
- MathWorks MATLAB

その他のサードパーティ・ソフトウェアのインストール

Xシリーズ・シグナル・アナライザ・プラットフォームはオープンなWindows環境なので、許可されていないソフトウェアでも測定器にインストールできます。ただし、許可されていないソフトウェアをインストールすると、測定器の性能に影響が及ぶおそれがあります。Agilentは、許可されていないソフトウェアをインストールした場合のアナライザの性能については保証しません。

注記

測定器に追加のプログラムをインストールするには、シグナル・アナライザ・アプリケーションを終了する必要があります。

また、工場出荷時に測定器にインストールされたアプリケーションやプログラムは、削除しないでください。

Agilentがテストしたプログラム以外のプログラムをインストールすると、測定器のアプリケーションに問題が生じるおそれがあります。問題が発生した場合には、問題の原因となったプログラムをアンインストールするか、プログラムの設定を変更してみてください。それでも問題を修正できない場合、Agilent Recovery Systemを使用して、測定器のシステム・ソフトウェアを再インストールする必要があります。

ユーザ・アカウント

管理者ログイン

工場出荷時の管理者アカウントのパスワードは“agilent4u”です。管理者アカウントを使用して、以下の操作を実行できます。

- ソフトウェアのインストール
- ネットワークおよびプリンタ・アクセスの設定
- 測定器上のすべてのファイルへのアクセス
- ユーザ・アカウントとパスワードの追加／変更
- Windowsの設定変更
- アプリケーションの実行

ユーザ・ログイン

工場出荷時のデフォルトのユーザ・アカウントは“Instrument”、パスワードは“measure4u”です。このユーザは、パワー・ユーザ・グループのメンバです。測定器アカウントを使用して、以下の操作を実行できます。

- ソフトウェアのインストール
- ネットワークおよびプリンタ・アクセスの設定
- パワー・ユーザ・グループがアクセス可能な測定器上のファイルへのアクセス
- パワー・ユーザ・グループがアクセス可能なアプリケーションの実行

AgilentOnlyユーザ・アカウント

測定器には、管理者パスワードの変更後、管理者パスワードを紛失したか忘れた場合にAgilentのカスタマ・サポートが使用できる、“AgilentOnly”と呼ばれるユーザ・アカウントがあります。AgilentOnlyアカウントを削除／変更しないでください。

Agilentサービス・ユーザ・アカウント

測定器のサービスが必要な場合にAgilentが使用するユーザ・アカウントが定義されています。

カスタマ作成のアカウント

追加のユーザ・アカウントを作成し、作成した新しいユーザ・アカウントに許可するセキュリティのレベルを決めることができます。例えば、セキュリティのレベルを管理者、パワー・ユーザ、ユーザ、バックアップ・オペレータとして割り当てることが可能です。ユーザ名の大文字と小文字は区別されませんが、パスワードの大文字と小文字は区別されます。

注記　シグナル・アナライザ・ソフトウェアが動作するためには、ソフトウェアを実行するユーザ・アカウントに管理者特権またはパワー・ユーザ特権を割り当てる必要があります。割り当てないと、シグナル・アナライザ・ソフトウェアが正しく動作しません。

Agilentでは、各ユーザのMy DocumentsフォルダをD:ドライブにマッピングすることを期待しています。これにより、Agilent Recoveryを実行する必要がある場合に、ユーザ・データの上書きを避けることができます。また、D:ドライブの中身を外部メディアにコピーするだけで、簡単にバックアップが行えます。工場で作成した全ユーザ・アカウントのMy Documentsは、すでにD:ドライブにマッピングされています。すべての新しいユーザのMy DocumentsフォルダをD:ドライブにマッピングしてください。

Agilent Xシリーズ・アナライザのライセンス・オプション

Agilent Xシリーズ・アナライザでは、次の3種類のライセンスが用意されています：固定永久、トランスポータブル永久（*PXA*、*MXA*、*EXAのみ*）、試用。これらのライセンス・タイプは、固定永久ライセンスが必要なスペクトラム・アナライザ測定アプリケーション (N9060A)、トランスポータブル・ライセンスをサポートしていないリモート言語互換アプリケーション (N9061A) を除くすべての既存の測定アプリケーションで使用できます。ハードウェア・オプションを有効にするには、固定永久ライセンスも必要です。

固定永久

固定永久ライセンスは従来のライセンス・タイプ（固定）で、期間はXシリーズ発表以来すべての機能に適用されてきたものと同じ（永久）です。固定永久ライセンスは、オプション記号の2番目の文字が“F”、3番目の文字が“P”です。

例：N9068A-2FPまたはW9068A-2FP

ライセンス・キーは、測定器のモデルとシリアル番号に依存します。ライセンス・キーは、作成対象の測定器にのみインストール可能です。

トランスポータブル永久（PXA、MXA、EXAのみ）

トランスポータブル永久ライセンスは、オプションのライセンス・タイプで、ライセンスの展開期間は特定の測定器モデルやシリアル番号に固定されません。トランスポータブル永久ライセンスは、オプション記号の2番目の文字が“T”、3番目の文字が“P”の製品構成です。

例：N9068A-2TP

異なるタイプの測定器間でライセンスを移行することもできます。このため、MXAやEXAからやその逆に、または同じタイプの測定器（MXAまたはEXA）間で、測定アプリケーション・ライセンスを移行できます。

トランスポータブル永久ライセンスでは、ライセンスのチェックイン／アウトを管理するためだけに、Agilentサーバに接続する必要があります。Agilentライセンス・サーバには、測定器から移行され、新しい測定器への割り当てを待っている未使用のライセンスを保管することもできます。サーバは、各アプリケーション・ライセンスの30日間当たりの移行回数を10回に制限します。

新しい測定器を購入した場合に工場でプリインストールされる固定永久ライセンスと違って、トランスポータブル永久ライセンスは、初めて使用する場合は、その前にライセンスを取得してインストールする必要があります。このため、アプリケーション・ライセンスを最初にインストールする測定器をユーザが決定できます。

各測定器で最新コードを使用し、どちらの測定器でも同じように扱うことができるようにするには、測定器ソフトウェアのリリースを同じにしてください。これは特に、最新のソフトウェア・リリースでしか使用できない場合のある、新たにリリースされたアプリケーションのライセンスを移行する場合に重要です。

試用ライセンス

試用ライセンスでは、アプリケーションを購入前に試すことができます。これらのライセンスは14日間の期間限定で、1台の測定器当たり1つのアプリケーションにつき1回の試用に制限されます。Agilent Software Licensing (ASL) システムのライセンス取得過程を通して、この制限が課せられます。

試用ライセンスは、測定アプリケーションにだけ適用され、ハードウェア機能（N9010AまたはN9020Aオプション）には使用できません。

試用ライセンスは工場でインストールされません。また、新しい測定器の出荷時に配布するためのライセンス証明書も作成されません。試用ライセンスをオーダすることはできませんが、簡単な登録を行えば、Agilent Webサイトから入手できます：

http://www.agilent.co.jp/find/xseries_trial

試用ライセンスのライセンス記号は"–TRL"です。

例：N9071A-TRL

複数階層（複数の機能レベル）の製品の場合は、ライセンスの有効期間中は、–TRLライセンスですべての階層を使用できます。基本階層を使用していて、上位階層の試用ライセンスを取得したい場合は、–TRLライセンスをインストールできます。有効期限を過ぎると、ライセンス対象は基本階層に戻ります。

新しい測定アプリケーション・ソフトウェアのライセンス：新規購入後

シグナル・アナライザの新規購入後に、測定アプリケーション・ソフトウェアを追加でオーダすることができます。ソフトウェア・アップデートは、オプションに基づいたライセンス証明書、ライセンス契約書、USBストレージ・デバイスから構成されるキットです。ライセンスをライセンスWebサイトからストレージ・デバイスにダウンロードして、測定器にロードすることができます。

アップグレードが届くまで待ちたくない場合は、使用可能なUSBストレージ・デバイスを用いて、ライセンスをインストールすることができます。その場合は、最新バージョンの測定器ソフトウェアをインストールしてください。これにより、ライセンス供与されているアクティブな最新バージョンの測定アプリケーションがインストールされます。

最新バージョンのソフトウェアは、以下のWebサイトからダウンロードすることもできます。

http://www.agilent.co.jp/find/pxa_software

http://www.agilent.co.jp/find/mxa_software

http://www.agilent.co.jp/find/pxa_software

http://www.agilent.co.jp/find/cxa_software

ライセンス・キーは通常、1つの測定器モデルとシリアル番号の組み合わせに対して割り当てられます。ライセンス・キーは、その測定器だけにインストールできます。

注記 測定アプリケーションのインストール後は、校正が一切不要です。

USB経由でのインストール手順

ステップ	操作	注記
1 オプションのアップグレード・ライセンス証明書を取得します。	• 証明書の取得手順に従います。	オプションのアップグレード・ライセンス証明書を取得すると、ライセンス・ファイルが添付された電子メールが送られてきます。
2 ライセンス・ファイルを保存します。	• .licファイルをUSBストレージ・デバイスのルート・ディレクトリに保存します。	
3 ライセンス・ファイルをロードします。	• USBストレージ・デバイスをシグナル・アナライザのUSBポートの1つに接続します。	Windowsが新しいハードウェアを検出すると、機器構成メニューが表示されます。 シグナル・アナライザは、ライセンス・ファイルを自動的にロードします。（これには数分かかる場合があります）完了すると、Agilentライセンス・マネージャは“Successful License Installation”というメッセージを表示します。

ステップ	操作	注記
注記	別の方法として、ライセンス・ファイルをシグナル・アナライザの次のフォルダに入れることにより、USBまたはLAN経由でライセンス・ファイルを手動でインストールすることもできます。 C:\Program Files\Agilent\licensing	
4 インストールを確認します。	**a** シグナル・アナライザの電源を入れ直します。 **b** **System**、**Show**、**System**を押します。 **c** 新しいアプリケーションがリストに表示されていることを確認します。	電源を入れ直すまで、アプリケーションを使用することはできません。 これにより、インストールされているアプリケーションのリストが表示されます。 さらにサポートが必要な場合は、Agilentサポート・チームまでお問い合わせください。 オンライン・アシスタンス： http://www.agilent.co.jp/find/assist インターネットにアクセスできない場合は、計測お客様窓口までお問い合わせになるか、米国内の場合は、1-800-829-4444までご連絡ください。

Xシリーズ・アナライザ間でのライセンスの移行

トランスポータブル・ライセンスは、オプション記号の文字"TP"によって識別できます。例えば、N9068A-2TPはトランスポータブル永久ライセンスであることを示します。このライセンスをあるXシリーズ・アナライザから別のXシリーズ・アナライザに移行するには、両方のアナライザの測定器ソフトウェアのリリースが同じであることが推奨されます。これにより、どちらの測定器でも同じように扱うことができます。

最低でも、トランスポータブル・ライセンスを取得するアナライザ（「ターゲット測定器」）の測定器ソフトウェアのリリースは、必要なアプリケーションに対応していなければなりません。

Xリーズ・シグナル・アナライザは、数通りのライセンス移行方法をサポートしています。以下の手順は、最も一般的な手順に重点を置いています。どのアナライザもインターネットにアクセスできません。この手順を有効にするには、インターネット接続が可能なPCが必要です。

以下のものが必要です。

- USBフラッシュ・ドライブ
- USBキーボード
- USBマウス

トランスポータブル・ライセンスの移行元のアナライザを「ソース測定器」と呼びます。トランスポータブル・ライセンスを取得するアナライザを「ターゲット測定器」と呼びます。

ライセンスの移行手順（いずれのアナライザもインターネットに接続されていません）

ステップ	操作	注記
1 USBデバイスをソース測定器に接続します。	• USB フラッシュ・ドライブ、USB キーボード、USB マウスをソース測定器のUSBポートに接続します。	USBデバイスを接続するには、リア・パネルの1つ以上のポートを使用する必要があります。
2 各アナライザのソフトウェア・バージョンを確認します。	• 各アナライザの **System**、**Show**、**System** を押して、それぞれの測定器ソフトウェアのリビジョンを書き留めます。	リビジョンが同じなのが理想です。最低でも、両方のバージョンが、ライセンスを移行中のアプリケーションに対応していなければなりません。
3 ターゲット測定器からホストIDを取得します。	• ターゲット測定器の **System**、**Show**、**System** を押して、ホストIDを書き留めます。	ターゲット測定器に対してライセンスを発行するには、この情報が必要です。ホストIDは、モデル番号の後にカンマとシリアル番号が続きます。

ステップ	操作	注記
4 ソース測定器でライセンス・マネージャを起動します。	• ソース測定器の**System**、**More**、**Licensing...**を押します。Agilent ライセンス・マネージャ画面にインストールされているライセンスがすべて表示されるまで、少し時間がかかる場合があります。	
5 トランスポータブル・ライセンスをソース測定器から移行します。	**a** ソース測定器のトランスポート対象のライセンスを見つけて、強調表示します。オプション記号に"TP"という文字が含まれていなければなりません。	固定永久ライセンスではなく、トランスポータブル・ライセンスを選択してください。
	b マウスの右ボタンをクリックして、**Delete**を選択します。 **c** License Deletion Confirmationダイアログ・ボックスの**Yes**をクリックします。	トランスポータブル・ライセンスを「削除」していますが、最終的にはそのライセンスを移行します。
	d 数秒後に、Transport Licenseダイアログ・ボックスが表示されます。**OK**をクリックし、*.urlファイルに"PhaseNoise_License.url"などの名前を付けて、USBフラッシュ・ドライブに保存します。	ターゲット測定器に対して新しいライセンスを発行する場合に、このダイアログ・ボックスの情報が使用されます。
6 ASL Transportation Webページから新しいライセンスを取得します。	**a** USBフラッシュ・ドライブをインターネットに接続しているPCに挿入します。	インターネット接続が可能で、使用可能なUSBポートがあるPCが必要です。
	b 前のステップで保存したPCのUSBフラッシュ・ドライブにある*.urlファイルを見つけ出して、クリックします。	
	c 数秒後に、ASL Transportation Webページが表示されます。1つのフィールドNew Host IDはブランクです。	フィールドのほとんどは、*.urlファイルの情報で埋められています。
	d ターゲット測定器のホストID（上のステップ3）をNew Host IDフィールドに入力します。 **e** **Submit**をクリックします。	New Host IDに入力する場合は注意してください。New Host IDの入力でミスをすると、無効なライセンスが発行されてしまいます。モデル番号とシリアル番号の間にカンマを入れてください。Host IDにスペースを入れることはできません。
7 ライセンス・ファイルをUSBフラッシュ・ドライブに保存します。	**a** ASL Transportation Webページに、ライセンス・ファイルが入手可能であることが示され、ライセンス・ファイルへの2つのリンクが表示されます。ライセンス・ファイルを右クリックし、**Save Target As...**を選択します。	いずれのリンクを使用しても、ライセンス・ファイルを表示／保存することができます。
	b ライセンス・ファイルをUSBフラッシュ・ドライブのルート・レベルに保存すると、".lic"ファイル拡張子が付けられます。 **c** Saveダイアログを閉じ、ASL Transportation Webページを終了します。	ライセンス・ファイルは、USBフラッシュ・ドライブのルート・レベルに保存して、ターゲット測定器が認識できるようにする必要があります。

ステップ	操作	注記
8 ライセンス・ファイルをターゲット測定器にインストールします。	a ターゲット測定器が動作している状態で、USBフラッシュ・ドライブをフロント・パネルのUSBポートの1つに挿入します。数分後に、“Successful License Installation”というメッセージが表示されます。	ターゲット測定器で動作しているAgilentライセンス・サービスは、USBデバイスが挿入されたことを検出すると必ず、*.licファイルを検索します。*.licファイルの中身が測定器にふさわしい場合は、ライセンスが自動的にインストールされます。
	b ターゲット測定器の電源を入れ直します。	新たにインストールされたライセンスは、電源投入時に測定器ソフトウェアによってのみ認識されます。
	c アナライザがリブートしたら、アプリケーションをターゲット測定器で使用できます。	

Windows設定

Windowsの設定は、最高の測定性能が得られるように最適化されています。これらの設定を変更すると、測定器の性能や測定速度が低下するおそれがあります。一般に、ほとんどのWindowsのシステム設定（通常、Windowsコントロールパネルを使って設定）は変更しないでください。以下に、変更しても安全な設定を示します。

注意

Windowsのシステム設定を変更したことにより生じた問題から回復するには、Agilent Recoveryプロセスを使用してWindowsシステムと測定器アプリケーションを再インストールする必要があります。

変更できる設定

個人的な好みを選択するため、（Windowsコントロールパネルから使用可能な）以下のWindows設定または管理タスクを変更できます。

注記

Windowsのシステム設定を変更するには、測定器アプリケーションを終了してください。

使用する機能	実行する作業
Automatic Updates	Microsoft自動更新を設定します。
Security Center	ウィルス対策プログラムをインストール／設定します。
User Accounts	新しい測定器ユーザ・アカウントを設定します。 注意　“Agilent-Only”ユーザ・アカウントを削除／変更しないでください。
Network Connections	測定器をネットワークに追加します。

使用する機能	実行する作業
	プリンタをインストール／設定します。
Date and Time	時刻と日付を設定します。
	システムのプロパティの変更、パフォーマンスの詳細タブ設定、*最高のパフォーマンスを得るための調整*を行います。それ以外の設定は、変更しないでください。

変更してはいけない設定

このセクションの設定の変更は避けてください。以下の設定を変更すると、測定器の性能、画面表示の質、測定速度が低下する可能性があります。

使用してはいけない機能	実行する作業
Power Options	電源オプションを変更しないでください。（電源スキーム、電源ボタン、休止状態）
System	システムのプロパティ、ハードウェア・タブ設定（デバイス・マネージャ、ドライバ）を変更しないでください。 システムのプロパティ、詳細タブ設定（パフォーマンス（*最高のパフォーマンスを得るための調整を除く*)、ユーザ・プロファイル、起動と回復、環境変数、エラー報告）を変更しないでください。
Fonts	インストールされているフォントを削除しないでください。
Display	以下の画面設定を変更しないでください。 • スクリーン・セーバ設定 • 画面の解像度、1024 x 768 • DPI設定の通常のサイズ (96 DPI)

使用してはいけない機能	実行する作業
Regional and Language ...	地域オプション・タブの設定（標準と形式、場所）を変更しないでください。 言語タブの設定（テキスト・サービスと入力言語）を変更しないでください。
User Accounts	“AgilentOnly”ユーザ・アカウントを削除／変更しないでください。

また、以下を行わないでください。

- ハードディスク・ドライブのパーティションの追加、削除、変更
- Agilentレジストリ・エントリの削除または変更
- 名前に“Agilent”を含むディレクトリの中身の変更
- 以下のサービスの中止
  - MSSQL$CDFサービスの中止、または“Microsoft SQL Server Desktop Engine”のアンインストール
  - IISサーバの中止、または測定器で設定されていた仮想ディレクトリ（またはそのコンテンツ）の改ざん
- 以下のライブラリ、インタフェース、プログラムのアンインストール
  - Agilent I/Oライブラリ
  - .NET Framework、または.NET Framework用のHotfixやService Pack
  - “Microsoft Visual J# .NET Redistributable Package 1.1”
  - “Agilent”で始まるプログラム
  - Adobe Acrobat Reader
- 以下の変更
  - Agilent Connection ExpertまたはI/O Configに設定済みInstrument I/Oとして表示されたAgilent I/Oライブラリ“GPIB27”、“GPIB28”インタフェース

プリンタの設定

プリンタの設定にはMicrosoft Windowsコントロールパネルを使用します。コントロールパネルには、Windowsのスタート・メニューまたはフロント・パネルの**System**キーからすぐにアクセスできます。このセットアップ・プロセスの実行は、USBマウスと外部キーボードを使用すると簡単です。マウスがない場合は、フロント・パネル・キーを使用できます。「マウスがない場合のWindowsの移動」（74ページ）を参照してください。

新しいプリンタをセットアップする場合は、プリンタ・ドライバをロードする必要があります（ネットワーク・プリンタを使用している場合は、社内のIT部門により、ドライバが含まれるようセットアップしてください）。プリンタのメーカがドライバ・ソフトウェアとプロセスを提供します。外部USBディスク・ドライブを接続している必要があります。測定器をLANに接続し、プリンタ・メーカのインターネット・サイトからドライバをダウンロードする方法もあります。

LANの設定

ホスト名

コンピュータ名またはホスト名は、工場で設定済みです。LAN上の他の機器と衝突しないように一意の名前にする必要があります。設定済みのコンピュータ名はA-N90yyA-xxxxxです。xxxxxは測定器のシリアル番号の最後の5桁です。yyは、PXAの場合は30、MXAの場合は20、EXAの場合は10、CXAの場合は00です。

コンピュータ名を変更するには、Microsoft Windows XPヘルプとサポートセンターを参照してください。

IPアドレスとゲートウェイ

測定器は、DHCPを使用してIPアドレスを取得するよう設定済みです。IPアドレスとゲートウェイを変更できます。LANを設定するには、Microsoft Windows XPヘルプとサポートセンターを参照してください。

Windowsセキュリティ

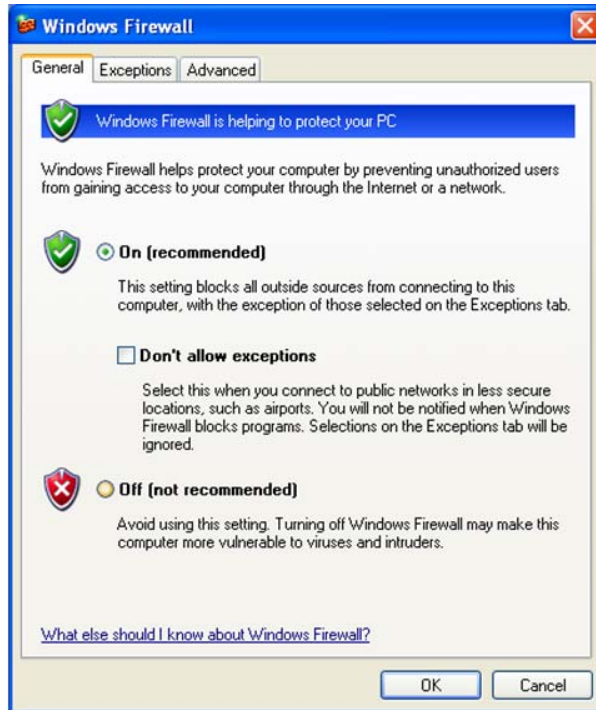
Microsoftでは、測定器のWindows XPオペレーティング・システムを保護するために、以下のことを推奨しています。

- インターネット・ファイアウォールの使用
- 最新の重要なWindowsの更新の取得
- 最新ウィルス対策ソフトウェアの使用

測定器のセキュリティ設定の状態を確認する場合や変更を行う際に、Windowsセキュリティセンターを開くには、**スタート**、**コントロールパネル**をクリックしてから、**セキュリティセンター**をクリックします。

注記　ウィンドウは、測定器によって少し異なります。

Windowsファイアウォール

測定器は、Windowsファイアウォールを有効にした状態で出荷されています。

注記　ウィンドウは、測定器によって少し異なります。

測定器がネットワークで正しく動作できるように、プログラムとポートに対するWindowsファイアウォールの**例外**が追加されています。これらの設定を変更すると、測定器が正しく動作しない可能性があります。

自動更新

測定器にインターネット・アクセスがある場合、測定器のデフォルト設定により、重要なWindows更新が自動的に確認され、通知されます。

Microsoft自動更新の設定を変更して、更新が通知されないようにすることができます。Internet Explorerにアクセスしてツール・メニューからWindows Updateを選択することにより、Windowsを手動で更新できます。

注記

Windows Updateのダウンロードとインストールは、ネットワークとCPUをかなり使用します（測定器の性能に影響を与えます）。Windows Updateにより、測定器が自動的にリブートされます。測定器を使用していないときにWindows Updateを実行することを推奨します。

ウィルス防護

測定器にはウィルス対策ソフトが付属していません。ウィルス対策アプリケーション・ソフトウェアが測定器と互換性があることはテスト済みです。Agilentでテスト済みのウィルス対策ソフトウェアについては、「Agilentによって検証済みのサードパーティ・ソフトウェア」（43ページ）を参照してください。

注記

ウィルス対策ソフトをインストールすると、測定器の性能にいくらか影響があります。

スパイウェア防護

測定器にスパイウェア対策ソフトはインストールされていません。測定器をインターネットのブラウズに多用しなければ、問題にはなりません。測定器にスパイウェアをインストールすると、測定器の性能に影響を与えるおそれがあります。

システム保守

バックアップ

定期的なバックアップ対策の使用を推奨します。社内IT部門で、測定器とデータに適したバックアップ対策がすでにとられている可能性があります。Agilent Recovery Systemを定期的なバックアップ対策と併用すると、測定器データの完全な回復が可能になります。

Windows XPには、ハードディスク・ドライブの故障時にファイルとフォルダのアーカイブに使用できるバックアップ・ユーティリティが備わっています。このユーティリティの詳細については、Microsoft Windows XPヘルプとサポートセンターを参照してください。サードパーティのバックアップ・ユーティリティを使用することもできます。ただし、このサードパーティ・ソフトウェアが測定器のシステム・ソフトウェアと互換性があることを確認する必要があります。詳細については、「ソフトウェアのカスタマ・インストール」（43ページ）を参照してください。

バックアップを実行する際には、ネットワークまたは測定器のUSBコネクタに接続された外部ストレージ･デバイスにデータをバックアップすることを推奨します。また、バックアップは、測定器の全体の性能に影響を与えるおそれがあるため、測定器を通常の操作に使用していないときに実行します。

システムの復元

Windows XPには、システムを前の時間ポイントまで復元する機能が含まれています。システムの復元は、Microsoftが提供するデフォルト設定で有効になります。ただし、システムの復元が100 %成功することはありません。このため、システムの復元は、測定器をバックアップする推奨方法ではありません。システムの復元に対しては、復元の成功を検証するテストが行われていません。

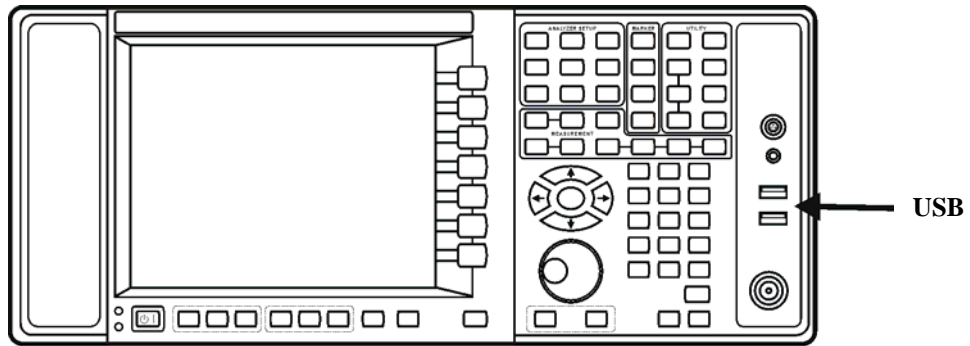
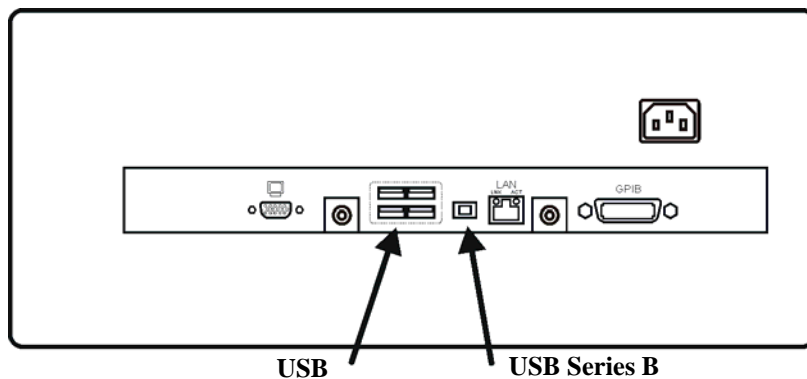
ディスクデフラグ

時間の経過と共に測定器のハードディスクがフラグメント化されます。Windows XPには、ハードディスクのデフラグに使用できるディスクデフラグ・ユーティリティがあります。このユーティリティの詳細については、Microsoft Windows XPヘルプとサポートセンターを参照してください。

注記

ディスクデフラグの実行は、測定アプリケーションが動作していないときに行う必要があります。ディスクデフラグの進行中、測定スループットが大きく影響を受けます。

USB接続

すべてのUSBポートは、USB 2.0および1.1仕様と互換性があります。フロント・パネルの2個のUSBポート（下の図を参照）とリア・パネルの4個のUSBポートが、USB Series “A”ポートです。これらのポートに、USBマス・ストレージ・デバイスとプリンタを接続できます。測定器のUSBホスト・サポートには、ヒューマン・インタフェース・デバイス、マス・ストレージ・デバイス、プリンタ・デバイス、スキャン・デバイス、イメージング・デバイス用の標準Microsoft Windows XP USBクラス・ドライバが含まれています。Windows XP USBクラス・ドライバのサポートの詳細な最新リストは、MicrosoftのWebサイトで入手できます。

リア・パネルの四角のUSBポート（下の図を参照）は、USB Series “B”ポートで、USB経由での測定器の制御に使用されます。測定器のプログラミングに役立つ情報が、『X-Series Programmer’s Guide』に記載されています。測定器ソフトウェアに含まれる測定器USBデバイス・ドライバは、電子計測業界標準USBTMC-USB488デバイス・クラスをサポートしています。

さらに、測定器に付属のAgilent IO Libraries CDに、USBバスに接続されたその他の測定器を制御できるUSBホスト・ドライバが含まれています。

サードパーティからの追加USBドライバを測定器にインストールした場合は、Agilent Technologiesは測定器の正常な動作をサポート／保証しません。追加ドライバにより正常なUSB動作が中断する可能性があります。USB動作が中断した場合は、回復でハードドライブ回復プロセスを使用した測定器アプリケーションの再インストールが必要となります。

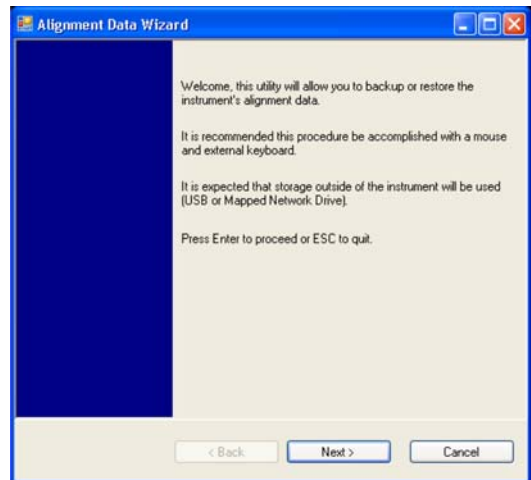
ハードドライブの分割と使用

ドライブは、3つのセクションに分割されます：C:、D:、E:

- **C:** パーティションには、Windows XPオペレーティング・システムとAgilentがインストールしたソフトウェアが格納されています。これは、オープン・システムです。すなわち、追加ソフトウェアをインストールできます。追加ソフトウェアはC:ドライブにインストールします。ただし、Agilent測定ソフトウェアとの併用についてテスト済みのソフトウェア・アプリケーションは、限定されています。その他のソフトウェアのインストールや使用については保証されません。測定ソフトウェアの動作を阻害する可能性があります。測定器の修理が必要になった場合は、AgilentバージョンのC:ドライブが、Agilent Recoveryプロセスによって復元される測定器ソフトウェアの唯一の部分です。測定器に追加したその他のソフトウェアをロードし直す必要があります。
- **D:** パーティションはデータ・ストレージ用に確保されています。Agilentによって設定されたユーザ・アカウントには、それぞれD:ドライブにマッピングされたMy Documentsフォルダがあります。これにより、測定データのバックアップが容易になります。D:ドライブのデータは、常に外部デバイスにバックアップしておきます。こうすれば、ハード・ドライブの交換が必要になった場合にデータを復元できます。
- **E:** パーティションは Agilent 用に確保されています。E: ドライブの主要な使用目的は、校正データとアライメント・データの格納です。このドライブのファイルを変更／上書きしないでください。測定器が仕様に適合しなくなるばかりでなく、正しく機能しなくなる可能性もあります。このドライブをデータ・ストレージに使用しないでください。工場校正データ・バックアップ・ユーティリティを使用して、このドライブの中身もバックアップすることを推奨します。

工場校正データのバックアップ

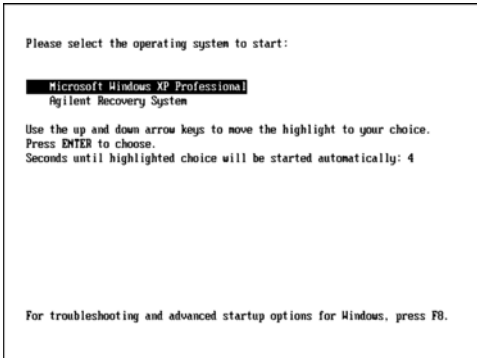
工場校正データをバックアップするには、USBマウスとストレージ・デバイスが必要です。以下の手順を実行します。

ステップ	注記
1 マウスを測定器のUSBポートの1つに挿入します。	
2 USBメモリ・デバイスを測定器のUSBポートの1つに挿入します。	
3 **System**、**Alignments**、**Backup or Restore Align Data...**を押します。	アライメント・データ・ウィザードが表示されます。
4 画面上の指示に従って、校正データをUSBドライブにバックアップし、ファイルを保存します。	

ハードディスク・ドライブ回復プロセス

Agilent Recovery Systemは、測定器のC:ドライブ・パーティションのエラーの修復、またはシステム・ソフトウェアの元の工場設定の復元に使用できます。Agilent Recovery Systemは、別個の非表示ハードディスク・ドライブ・パーティションにストアされています。

ハードディスク・ドライブでエラーを修復すると、データやファイルが失われる可能性があります。Windowsの"chkdsk"エラー修復プロセスの詳細については、Microsoft Windows XPヘルプとサポートセンターのchkdskドキュメントを参照してください。

元の工場システム・ソフトウェアを復元しても、以下のアイテムは復元されません。

- 測定器が工場から出荷された後に行われたWindowsのシステム設定。例えば、WindowsおよびService Pack更新、ユーザ・アカウント、Windows構成設定です。Agilent Recovery後、これらの設定をやり直す必要があります。
- 測定器が工場から出荷された後にインストールされた追加ソフトウェア。Agilent Recovery後、ソフトウェアを再インストールする必要があります。
- D:またはE:ドライブに保存されたデータまたはプログラム。
- Agilent測定アプリケーション・ソフトウェアに対して行われた更新。

元の工場システム・ソフトウェアを復元しても、各種ハードウェア・アセンブリのフィールド・プログラマブル・ゲート・アレイ (FPGA) のコードと同期しません。このため、回復プロセスの終わりの最後のブートアップ中に、エラー・ダイアログ・ボックスが表示される場合があります。これは通常、回復の実行前にインストールされていたソフトウェア・バージョンと、回復によって復元されたバージョンに大きな違いがある場合に発生します。このような場合には、ソフトウェアを最新バージョンにアップグレードします。

注記

定期的なバックアップ対策を使用することを推奨します。社内IT部門で、測定器とデータに適したバックアップ対策がすでにとられている可能性があります。「システム保守」(62ページ)を参照してください。Agilent Recovery Systemを定期的なバックアップ対策と併用すると、測定器ソフトウェアとデータの完全な回復が可能になります。

測定器情報の現在のアーカイブを保持するため、測定器情報のルーチン・バックアップの実行を推奨します。これにより、測定器回復システム操作を実行した後に測定器情報の完全な回復が可能になります。詳細については、「バックアップ」(62ページ)を参照してください。

測定器回復システムの使用

ステップ	注記
1　測定器がオフになっていることを確認します。	
2　測定器をオンにします。	Agilent Technologies画面が表示された後に、 この画面が5秒間表示されます。 Please select the operating system to start: Microsoft Windows XP Professional Agilent Recovery System Use the up and down arrow keys to move the highlight to your choice. Press ENTER to choose. Seconds until highlighted choice will be started automatically: 4 For troubleshooting and advanced startup options for Windows, press F8.
5　下向き矢印キーを押して強調表示を **Agilent Recovery System**に移動し 、**Enter**を押します。	
3　Agilent Recovery Systemが起動したら、画面上の指示に従ってC:ドライブのイメージを回復します。 • **2**、さらに**Enter**を押して、回復を選択します。 • **1**、さらに**Enter**を押して、続行します。 • **1**、さらに**Enter**を押して、確定します。	このプロセスが完了するには、最大で25分かかる場合があります。

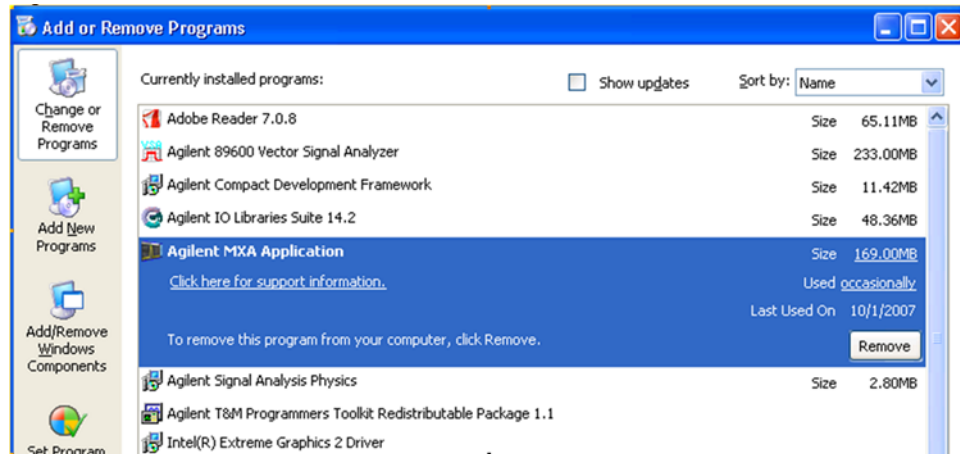
Agilent Recovery Systemを終了すると、測定器がリブートします。元の工場測定器システムが復元されたら、測定器は以下のプロセスを再実行します : 「アナライザの電源を初めてオンにする場合」（12ページ）。

注記

最後のリブート後に、XSAアプリケーションのスプラッシュ画面に、エラー・ダイアログ・ボックスが表示される場合があります。これは通常、回復の実行前にインストールされていたソフトウェア・バージョンと、回復によって復元されたバージョンに大きな違いがある場合に発生します。例えば、バージョンA.02.06からA.01.75に回復した場合に、よく起こります。.

以下の手順では、測定器のさまざまなプログラマブル・ゲート・アレイに常駐するプログラム・コードを復元したシステム・ソフトウェアと同期させる測定器ソフトウェアのコピーをロードします。

ソフトウェアの削除

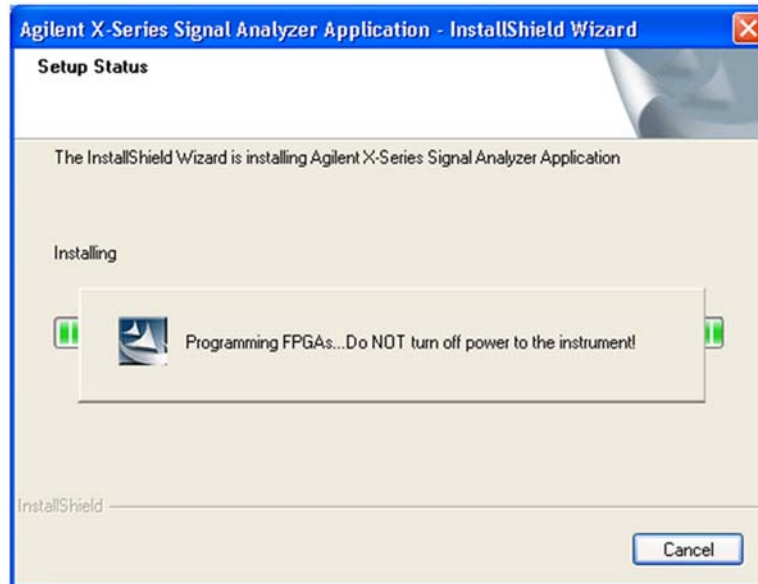
ステップ	注記
1 USBキーボードとマウスを測定器に接続します。	
2 デフォルト・ユーザ（測定器）からログアウトします： • **Start**、**Log Off**、**Log Off**を選択します。	
3 ログイン・プロンプトで、以下を入力します： • ユーザ名：**管理者** • パスワード：**agilent4u**	
4 アナライザ・アプリケーションをアンインストールします： • **スタート**、**コントロールパネル**、**プログラムの追加と削除**を選択します。 • **Agilent X-Series Signal Analyzer Application**または**Agilent MXA Application**を検索し、**削除**を選択します。	

• 選択したアプリケーションとその機能をすべて削除するプロンプトが表示されたら、**はい**を選択します。表示されるポップアップ・ウィンドウに対して、**OK**を選択します。 • ソフトウェアのアンインストールが完了したら、**終了**を選択します。	
5 アナライザが再起動するのを待ちます。	

ソフトウェアのインストール

ステップ	注記
1 デフォルト・ユーザ（測定器）からログアウトします： • **Start**、**Log Off**、**Log Off**を選択します	
2 ログイン・プロンプトで、以下を入力します： • ユーザ名 ：**administrator** • パスワード ：**agilent4u**	
3 Cドライブに移動します： • **スタート**、**マイコンピュータ**、**C:ドライブ**をクリックし、**Temp**フォルダを開きます。	
4 ソフトウェア・インストーラ・プログラムを検索します： “XSA_Installer_A.XX.XX.exe”または “MXA_Installer_A.XX.XX.exe”	
5 installer.exeをダブルクリックします。	インストーラが起動するのに、1、2分かかる場合があります。
6 ウィンドウが表示され、抽出プロセスが示されます。	抽出画面の直後には、短時間、画面上に動作が表示されない場合があります。デスクトップが短時間表示されることがあります。
7 画面上のプロンプトに従って、インストールを続行します。	

警告 **Programming FPGAs...Do Not turn off power to the instrumentというメッセージが表示されたら、そのとおりにして、いかなる理由があっても、この時点で測定器の電源をオフにしないでください。このプロセスが中断された場合は、通常、測定器をAgilentサービス・センターに送り返して、再び使用できるように修理する必要があります。**

ソフトウェアのインストール

ステップ	注記

注記　インストール・プロセスには、最大で45分かかります。測定器の電源をオフにしないでください。重大な損傷が生じる可能性があります。ポップアップ・ウィンドウが表示されたら、**OK**または**Ignore**を押して続行します。

ステップ	注記
8 インストールが完了したら、**Yes**を選択します。コンピュータを今すぐ再起動したい場合は、**Finish**を選択します。	
9 測定器を再起動すると、新たにインストールされたXシリーズ測定器ソフトウェア・バージョンが動作します。	

最新バージョンの測定器ソフトウェアは、以下のWebサイトで入手可能です。
http://www.agilent/co.jp/find/xseries_software

注記　システムをより最新に近い作業状態に完全に回復するには、追加の回復ステップが必要です。これには、アプリケーションとデータの再インストール、システムのカスタマイズの実行を含めた、ユーザ独自の測定器設定バックアップの復元が含まれます。

回復プロンプトのタイミングの設定

以下のステップを実行すると、測定器の電源投入プロセスが回復プロセスの選択を待つタイミングを設定できます。

ステップ	注記
1 **マイコンピュータ**を右クリックし、**プロパティ**をクリックします。	システムのプロパティ・タブ・ページが表示されます。
2 **詳細設定**タブをクリックします。	
3 **起動と回復**セクションで、**設定**をクリックします。	
4 **起動システム**セクションで、 • **オペレーティングシステムの一覧を表示する時間**チェック・ボックスをクリアするかまたは、 • **必要なときに修復オプションを表示する時間**チェック・ボックスを選択して、遅延に合わせて秒数を変更します。	

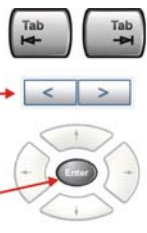
注記　これらの設定を変更するには、管理者としてログインする必要があります。詳細については、「ユーザ・アカウント」（44ページ）を参照してください。

4
Microsoft Windows XPの使用

注記

このセクションで説明している機能は、Microsoft Windows XPの機能です。以下の説明は、これらの機能を測定器で使用するための指針を示しています。詳細については、Windows XPのヘルプ・ドキュメントを参照してください。ご使用のバージョンのWindowsがこれらの手順に対応していない場合もあります。

これらの機能をフルに活用するには、外部キーボードとマウスが必要です。

Agilent Technologies

マウスがない場合のWindowsの移動

キーを押す	動作
Esc	Windowsダイアログ・ボックスを終了し、閉じます（アプリケーション・ウィンドウは終了しません）
Enter	現在の「デフォルト動作」を実行します。メニュー項目またはボタンが現在強調表示されている場合は、Enterキーでそのメニュー項目またはボタンをアクティブにします。
Alt	アクティブなウィンドウのプルダウン・メニュー・バーにフォーカス／コントロールを移動します。
右向き矢印	プルダウン・メニュー：1つ右のメニューを開くか、サブメニューを開きます。 ダイアログ・ボックスで：オプション・ボタンを選択します。
左向き矢印	プルダウン・メニューで：1つ左のメニューを開くか、サブメニューを開きます。 ダイアログ・ボックスで：オプション・ボタンを選択します。
上向き矢印	プルダウン・メニューで：メニューの1つ上にある選択に移動します。 ダイアログ・ボックスで：オプション・ボタンを選択します。
下向き矢印	プルダウン・メニューで：メニューの1つ下にある選択に移動します。 ダイアログ・ボックスで：オプション・ボタンを選択します。
Tab	ダイアログ・ボックスで：次／前のフィールドに移動します。
Del	現在選択されているアイテムを削除します。
Alt＋Tab	次／前のアプリケーション間を切り替えます。
Alt＋Enter	現在選択されているアイテムのプロパティを表示します。
Alt＋Esc	アイテムを、開いた順番で巡回します。
Backspace	マイコンピュータまたはWindows Explorerで：1つ上のレベルに移動します。 Internet Explorerで：BACK矢印キーと同様に機能します。
Ctrl + 左向き矢印	一度に1ワードずつ左に移動します。
Ctrl + 右向き矢印	一度に1ワードずつ右に移動します。
Ctrl＋Tab	ダイアログ・ボックスで：次／前のタブ位置に移動します。
Alt＋Space	現在アクティブのウィンドウのウィンドウ制御メニューを開きます。 ウィンドウの最小化、最大化、移動、復元（サイズ変更）が可能です。
Ctrl＋Esc	Windowsのスタート・メニューを開きます。
Ctrl＋Alt＋Delete	Windowsタスク・マネージャを開きます。

マウスを使用しない対話形式のヘルプ・システムの使用

メニューのヘルプ・ウィンドウを開くには：	目的のメニューを選択し、フロント・パネルの緑のHelpキーを押します。
ナビゲーション枠と項目枠を切り替えるには：	**Next Window**キーを押します。
ナビゲーション枠で：	**項目枠で：**
項目リストを上下にスクロールするには： **上向き**または**下向き矢印**キーを押します。	上下にスクロールするには： **上向き**または**下向き矢印**キーを押します。
選択した項目のツリー階層を表示する／非表示にするには： **右向き**または**左向き矢印**キーを押します。	次のページまたは前のページに移動するには： **Tab**キーを使用して、**右向き**または**左向き**ポインタ・ボタン（項目枠）を選択します。 **Enter**を押します。
選択した項目を表示するには： **Enter**を押します。	
左右にスクロールするには： **Ctrl**＋**左向き矢印**、**右向き矢印**、**上向き矢印**または**下向き矢印**キーを押します。	前後に移動するには： **Alt**＋**左向き**または**右向き**矢印キーを押します。
タブを切り替えるには： **Ctrl**＋**Tab**キーを押します。	
Helpウィンドウを閉じるには： **Cancel (Esc)**キーを押します。	

マウスを使用しないAcrobat (PDF) のナビゲーション

Acrobat (PDF) ドキュメントを開くと、以下に示すように、Adobe Readerウィンドウに表示されます。

ナビゲーション枠で：	ドキュメント枠で：
次／前のブックマークに移動するには： **上向き**または**下向き矢印**キーを押します。	上下にスクロールするには： **上向き**または**下向き矢印**キーを押します。
選択したブックマークの階層を表示する／非表示にするには： **右向き**または**左向き矢印**キーを押します。	ズームイン／ズームアウトするには： **Alt**＋**左向き**または**右向き矢印**キーを押します。
選択したブックマークの内容を表示するには： **Enter**キーを押します。	以下に合わせてズームする： a) ページをウィンドウに合わせる：**Ctrl**＋**0**キーを押します b) 実際のページ･サイズに合わせる：**Ctrl**＋**1**キーを押します c) ページを幅に合わせる：**Ctrl**＋**2**キーを押します c) 可視オブジェクト合わせる：**Ctrl**＋**3**キーを押します
タブを切り替えるには： **Ctrl**＋**Tab**キーを押します。	

<table>
<tr><th>ナビゲーション枠で：</th><th>ドキュメント枠で：</th></tr>
<tr><td>サムネール、表示ページを選択するには（Pagesタブから）：
左向き／右向き／上向き／下向きキーを押して移動し、Enterを押して選択したページを表示します。
</td><td>特定のページに移動するには：
Next Windowキーを押してGo to Pageダイアログを開き、テンキーを使ってページ番号を入力し、Enterを押します。
</td></tr>
<tr><td colspan="2">ドキュメントを全部または一部プリントするには：
Printキーを押して、Adobe Reader Print Dialogを開き、
Tabキーを使用してオプションを設定し、OKを選択してプリントします。
</td></tr>
<tr><td colspan="2">Adobe Readerを終了するには：
Alt＋Selectキーを押して、Fileメニューを開きます。
下向き矢印キーを使用してExitを選択し、Enterを押します。

</td></tr>
</table>

リモート・デスクトップ：Xシリーズ・シグナル・アナライザのリモート使用

測定器のリモート制御のために、Windowsのリモート・デスクトップを推奨します。すべて対話形式で制御するので、測定器を直接制御するのとほぼ同じです。内蔵Webサーバのインタフェースを使用して、測定器をリモート制御することも可能です。内蔵Webサーバ機能は、測定器へのログインが不要な通信方法を提供します。ただし、応答時間が遅くなるので、測定器の制御が必要のないセットアップやデータ交換だけに使用してください。

注記　リモート・デスクトップ機能は、Microsoft Windows XPの機能の1つです。以下の説明は、これらの機能を測定器で使用するための指針を示しています。詳細については、Windows XPのヘルプ・ドキュメントを参照してください。Windowsの進化に伴って、これらの手順が正確でなくなっている場合もあります。

この機能をフルに活用するには、外部キーボードとマウスが必要です。

リモート・デスクトップ操作の概要

測定器のリモート・デスクトップ機能を使用することにより、測定器の前に座っているかのように、リモート・コンピュータから測定器を制御したり、測定器と対話することができます。

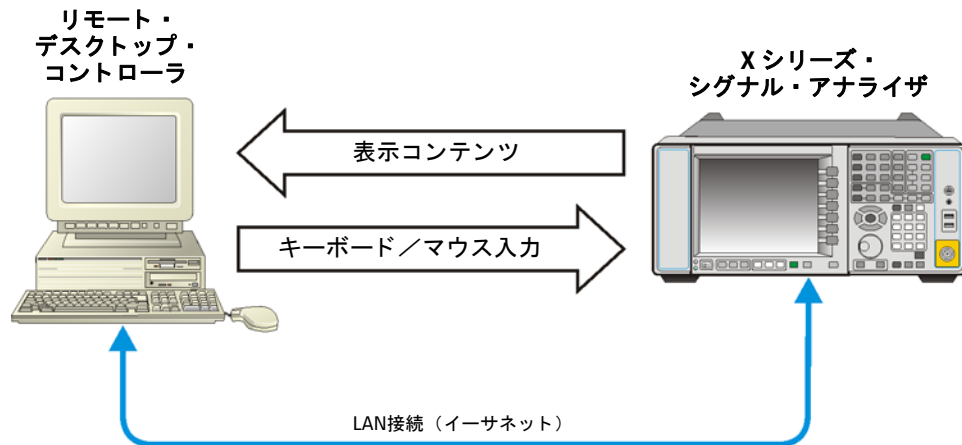
測定器をリモート接続用に設定し、別のコンピュータをリモート・デスクトップ・ホストとして機能するように設定すれば、リモート・コンピュータから測定器にコマンドを送信して、リモート・コンピュータの画面上に測定器の画面を表示することができます。

このセクションでは、リモート接続用の測定器の設定方法を詳細に説明します。さらに、32ビット・バージョンのMicrosoft Windowsをリモート・デスクトップ・ホストとして実行するコンピュータのセットアップ方法についても説明します。

リモート・デスクトップ操作のセットアップ

測定器のセットアップ

測定器をリモート・デスクトップ接続によって制御するには、リモート・コンピュータからの接続を許可するように設定する必要があります。

リモート・デスクトップ操作の基本的なセットアップ

リモート・デスクトップ接続のセットアップ

ステップ	注記
1 この操作を実行するには、測定器に対する管理者レベルのアクセス権が必要です。	
2 測定器で、Windowsの**コントロールパネル**を開きます。 • 測定器のアプリケーションから、**システム**、**コントロールパネル**、 *または*、 • Windowsのデスクトップから、**スタート**、**コントロールパネル**をクリックします。	
3 **システム**を選択します。 • コントロールパネルのカテゴリ表示から、**パフォーマンスとメンテナンス**をクリックし、**システム**をクリックします 。 *または*、 • コントロールパネルのクラシック表示から、**システム**をダブルクリックします。	
4 **リモート**タブをクリックします 。	必要に応じてリモート・デスクトップ接続を許可するようにインターネット接続の共有または個人用ファイアウォールを設定するように知らせる、警告メッセージが表示されます。このような設定の詳細については、本書では説明しません。
5 **このコンピュータがリモートで制御されるのを許可する**チェック・ボックスをクリックします。	
6 ユーザを追加するには、**リモート・ユーザの選択**、**追加**をクリックします。 • 画面上の指示に従います。	

リモート・コンピュータのセットアップ

セットアップするリモート・コンピュータがWindows XPを実行しているか、別のバージョンのMicrosoft Windowsを実行しているかによって、手順は異なります。

Windows XPを実行するリモート・コンピュータ Windows XPにはリモート・デスクトップ接続クライアント・ソフトウェアが含まれているので、追加のセットアップは不要です。

別のバージョンのWindowsを実行するリモート・コンピュータ 32ビットバージョンのWindows (Windows 95、98、ME、NT4、2000) を使用して、リモート・デスクトップ接続用のクライアント・ソフトウェアをインストール／実行することができます。ただし、クライアント・ソフトウェアが含まれているWindows XPのインストールCD-ROMを用意する必要があります。

注記

以下の手順は、Microsoft社が提供するソフトウェアと関連があります。Agilentは、このようなソフトウェアの操作に関しては保証しません。以下に説明する手順は、将来、Microsoft社によって変更される場合があります。

クライアント・ソフトウェアのインストール

ステップ	注記
1 初期画面が表示されたら、**追加のタスクを実行する**をクリックします。	
2 **実行する操作の選択**画面から、**リモート・デスクトップ接続をセットアップする**をクリックします。	リモート・デスクトップ接続InstallShieldウィザードが表示されます。
3 **次へ**をクリックします。	ウィザードの画面上の指示に従います。
4 インストールされているソフトウェアにアクセスするには、**スタート** > **すべてのプログラム** > **アクセサリ** > **通信** > **リモート・デスクトップ接続**をクリックします。	

測定器のコンピュータ名の検索方法

リモート・コンピュータを測定器に接続するには、コンピュータ名が必要です。コンピュータ名を表示するには、以下の手順を実行します。

Agilentアプリケーションからの名前の検索

ステップ	注記
• 測定器のフロント・パネルの**System**、**Show**、**System**を押します。	各種パラメータのリスト・ページが表示されます。測定器のコンピュータ名は、Computer Nameの横のリストに示されています。

Windowsのデスクトップからの名前の検索（マウスを使用）:

ステップ	注記
1 **スタート**、**コントロールパネル**をクリックします。	コントロールパネル・ウィンドウがカテゴリ表示で表示された場合は、**パフォーマンスとメンテナンス**、**システム**とクリックして、システムのプロパティ・ダイアログを表示します。コントロールパネルがクラシック表示で表示された場合は、**システム**をダブルクリックして、システムのプロパティ・ダイアログを表示します。
2 システムのプロパティ・ダイアログの**コンピュータ名**タブをクリックします。	
3 システムのプロパティ・ダイアログを閉じるには、**キャンセル**をクリックします。	

Windowsのデスクトップからの名前の検索（マウスを使用しない）:

ステップ	注記
1 **Ctrl**＋**Esc** を押して、Windowsの**スタート** メニューを表示します 。	
2 **上向き矢印**キーまたは**下向き矢印**キーを使用して、**コントロールパネル**を選択します。	
3 **Enter**を押して、コントロールパネル・ダイアログを開きます。	
4 カテゴリ表示で、**Tab**を押して**パフォーマンスとメンテナンス**を選択し、**Tab**を再度押して**システム**を選択するか、 または、 クラシック表示で、**Tab**と矢印を押して**システム**を選択し、**Enter**を押します。	システムのプロパティ・ダイアログが表示されます。
5 **コンピュータ名**タブが選択されるまで、**Ctrl**＋**Tab**を押します 。	コンピュータ名が**フル・コンピュータ名**の下に表示されます。
6 **Tab**を押して**キャンセル**ボタンを選択し、**Enter**を押します。	
7 コントロールパネル・ダイアログを閉じるには、 • **Alt**＋**Select**を押して、**ファイル**ドロップダウン・メニューを開きます。 • **閉じる**メニュー項目が選択されるまで、**下向き矢印**を押します。 • **Enter** を押して、コントロールパネル・ダイアログを閉じます。	

リモート・デスクトップ・セッションの実行

リモート・デスクトップ・セッションの初期化

注記

リモート・デスクトップ・セッションを初期化するには、測定器のコンピュータ名が必要です。コンピュータ名を測定器の画面上に表示するには、「測定器のコンピュータ名の検索方法」(80ページ)のセクションの手順に従います。

「リモート・デスクトップ操作のセットアップ」(78ページ)の説明に従って測定器とリモート・コンピュータをリモート・デスクトップ接続用にセットアップしたら、いつでもリモート・デスクトップ・セッションを開始できます。

セッションの開始

ステップ	注記
1 **スタート > すべてのプログラム > アクセサリ > 通信> リモート・デスクトップ接続**をクリックします。	リモート・デスクトップ接続ダイアログが表示されます。
2 測定器のコンピュータ名を入力します。	
3 **接続**をクリックします。	ログイン･ダイアログ･ボックスが表示されます。
4 ログイン・アカウント名とパスワードを入力します。	デフォルトのアカウント名は*Instrument*、デフォルトのパスワードは*measure4u*ですが、これらのパラメータは測定器のユーザが変更することができます。

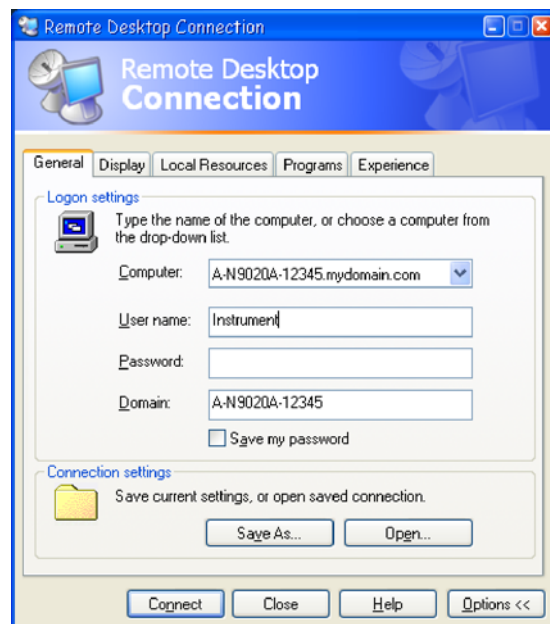
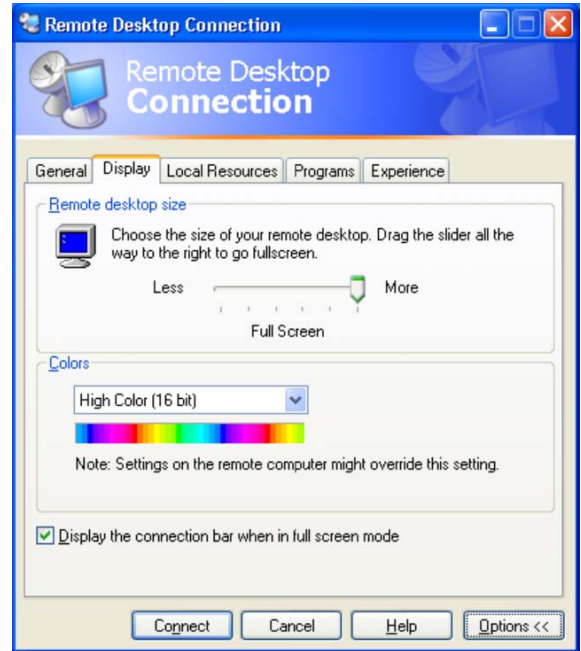
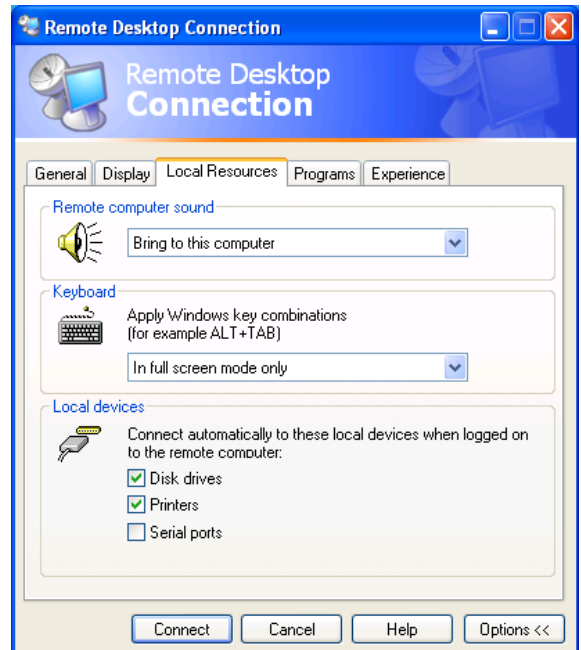
注記

測定器にリモート・ログインできるのは、現在のユーザまたは管理者だけです。測定器の現在のユーザを確認するには、スタート・メニューに現在のユーザ名が表示されるまで、測定器の**Ctrl**+**Esc**を押します。測定器に現在ログインしているユーザがいない場合は、測定器の正規ユーザであればリモート・ログインできます。

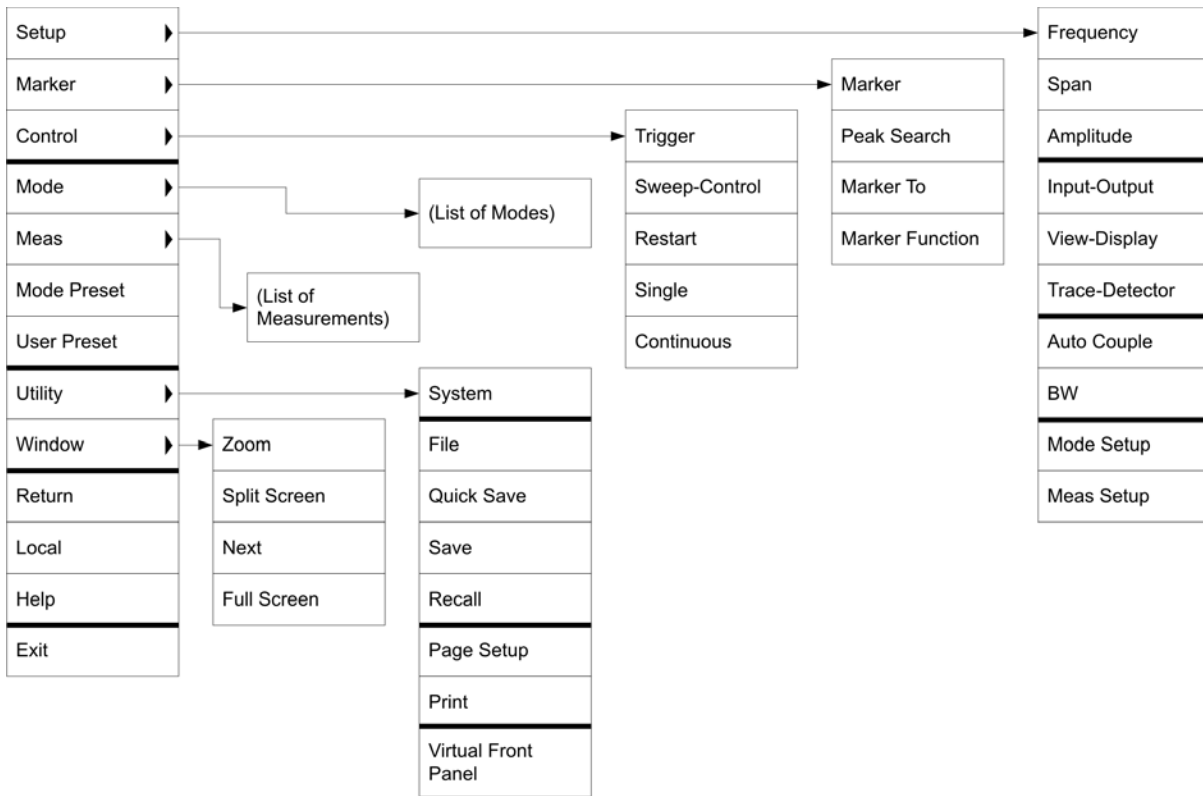
リモート・コンピュータの画面上に測定器の画面が表示されます。測定器をリモートで使用している場合は測定器のフロント・パネル・キーを使用できないので、フロントパネル・キーの機能を実行する別の3つの方法を用いることができます(詳細については、以下のセクションを参照してください)。

- 「リモート・デスクトップ操作用メニューの表示」(86ページ)
- 「リモート・デスクトップ操作用のキーコード・コマンド」(87ページ)
- 「仮想フロント・パネル」(91ページ)

リモート・デスクトップのオプションの設定

ステップ	注記
1 リモート・デスクトップ接続メニューで、**オプション**をクリックします。	 オプション・ダイアログにはタブがいくつかあります。通常は、デフォルト設定であれば問題ありません。
2 全般タブのコンピュータ名、ユーザ名、ドメイン名が正しく設定されていることを確認します。	**パスワードを保存する**ボックスをクリックして、パスワードを入力し、その後のセッション用に保存することもできます。

ステップ	注記
3 画面タブをクリックします。 • **リモート・デスクトップのサイズ**では、表示する測定器の画面のウィンドウ・サイズを選択することができます。1024 × 768ピクセルより小さいサイズは選択しないでください。1024 × 768より小さいリモート・デスクトップ・サイズを選択すると、測定器の画面がフル表示されません。このような場合には、スクロール・バーが表示されないので、画面の一部にアクセスできなくなります。 • **画面の色**では、15ビット以上を使用する設定を選択することも可能です。15ビット未満の色設定を選択した場合は、ディザリングが発生し、リモート・デスクトップ・ウィンドウの色表現が正確でなくなります。	
4 ローカルリソースタブをクリックします。 • **ディスクドライブ**チェック・ボックスを選択すると、リモート・デスクトップとローカルPCの間でデータを転送できます。 データを転送するには、リモート・コンピュータのタスクバー上の**スタート**をクリックし、**マイコンピュータ**をクリックします。Explorerがリモート・コンピュータ上で起動し、リモート・コンピュータとローカル・コンピュータのドライブが表示されます。これで2つのディスク・ドライブ間でコピー・アンド・ペーストすることができます。	

ステップ	注記
5 エクスペリエンスタブをクリックします。	リモート・デスクトップ・セッションのパフォーマンスを最適化するには、ドロップダウン・リストから適切な接続フォーマットを選択します。

リモート・デスクトップ操作用メニューの表示

マウスを使用してアプリケーションの表示ウィンドウで右クリックすると、以下のリモート・デスクトップ・メニューが表示されます。これらのメニューをフロントパネル・キーの代わりに使用することもできます。

メニューの各選択項目の機能は通常、対応するフロントパネルー・キーの機能と同じです。以下に、追加機能を示します。

Exit－この項目を選択すると、アプリケーション・ソフトウェアが終了します。

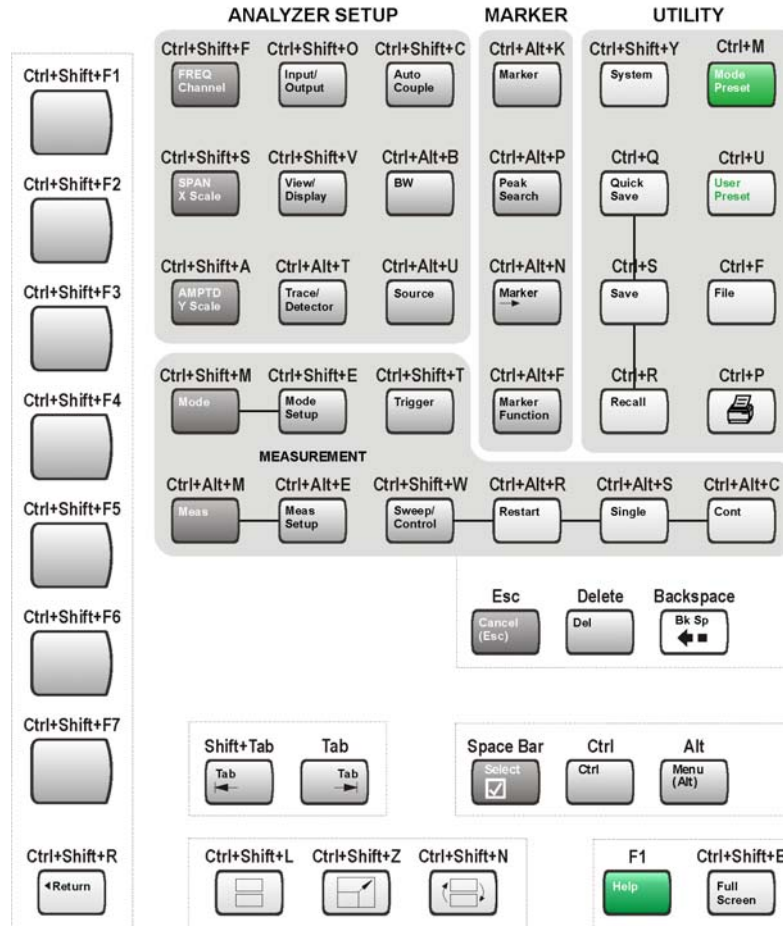
Utility > Page Setup－この項目を選択すると、プリンタ設定ダイアログが開きます。

Utility > Virtual Front Panel－この項目を選択すると、仮想フロント・パネル・ウィンドウが開きます（「仮想フロント・パネル」（91ページ）のセクションを参照）。

注記　マウスまたはその他のポインティング・デバイスが接続されていれば、測定器を直接使用する際にメニューを使用できます。

リモート・デスクトップ操作用のキーコード・コマンド

測定器をリモート・デスクトップ・モードで使用している場合は、以下のリモート・キーボード・キーの組み合わせを使用して、測定器のフロントパネル・キーの操作を実行することができます。

Agilent X シリーズ・シグナル・アナライザ
リモート・デスクトップ・キーコード

キーコード・コマンド

以下のフロントパネル・キーを実行するには：	リモート・コンピュータのキーボードの以下のキーを押します：
AMPTD Y Scale	**Ctrl＋Shift＋A**
Auto Couple	**Ctrl＋Shift＋C**
Bk Sp	Backspace
BW	**Ctrl＋Alt＋B**
Cancel (Esc)	**Esc**

キーコード・コマンド

以下のフロントパネル・キーを実行するには：	リモート・コンピュータのキーボードの以下のキーを押します：
Cont	**Ctrl＋Alt＋C**
Ctrl	**Ctrl**
音量低減	ボリューム・コントロール・スライダ
Del	**Delete**
下向き矢印	下向き矢印
Enter	**Enter (Return)**
File	**Ctrl+Shift+L**
FREQ Channel	**Ctrl＋Shift＋F**
Full Screen	**Ctrl＋Shift＋B**
Help	**F1**
音量増加	ボリューム・コントロール・スライダ
Input/Output	**Ctrl＋Shift＋O**
左向き矢印	左向き矢印
Marker	**Ctrl＋Alt＋K**
Marker ->	**Ctrl＋Alt＋N**
Marker Function	**Ctrl＋Alt＋F**
Meas	**Ctrl＋Alt＋M**
Meas Setup	**Ctrl＋Alt＋E**
Menu (Alt)	**Alt**
Mode	**Ctrl＋Shift＋M**
Mode Preset	**Ctrl＋M**
Mode Setup	**Ctrl＋Shift＋E**
Mute	ボリューム・コントロールの**Mute**チェック・ボックス
次のウィンドウ	**Ctrl＋Shift＋N**
Peak Search	**Ctrl＋Alt＋P**
プリント	**Ctrl＋P**
Quick Save	**Ctrl＋Q**
Recall	**Ctrl＋R**
Restart	**Ctrl＋Alt＋R**

キーコード・コマンド

以下のフロントパネル・キーを実行するには：	リモート・コンピュータのキーボードの以下のキーを押します：
Return	**Ctrl＋Shift＋R**
右向き矢印	右向き矢印
Save	**Ctrl＋S**
Select	スペース・バー
Single	**Ctrl＋Alt＋S**
ソフトキー 1	**Ctrl＋Shift＋F1**
ソフトキー 2	**Ctrl＋Shift＋F2**
ソフトキー 3	**Ctrl＋Shift＋F3**
ソフトキー 4	**Ctrl＋Shift＋F4**
ソフトキー 5	**Ctrl＋Shift＋F5**
ソフトキー 6	**Ctrl＋Shift＋F6**
ソフトキー 7	**Ctrl＋Shift＋F7**
Source	**Ctrl＋Alt＋U**
SPAN X Scale	**Ctrl＋Shift＋S**
分割表示	**Ctrl＋L**
Sweep/Control	**Ctrl＋Shift＋W**
System	**Ctrl＋Shift＋Y**
Tab	**Tab**
Trace/Detector	**Ctrl＋Alt＋T**
Trigger	**Ctrl＋Shift＋T**
上向き矢印	上向き矢印
User Preset	**Ctrl＋U**
View/Display	**Ctrl＋Shift＋V**
Zoom	**Ctrl＋Shift＋Z**
1	**1**[a]
2	**2**[a]
3	**3**[a]
4	**4**[a]
5	**5**[a]
6	**6**[a]

キーコード・コマンド

以下のフロントパネル・キーを実行するには：	リモート・コンピュータのキーボードの以下のキーを押します：
7	**7**[a]
8	**8**[a]
9	**9**[a]
–	必要に応じて、–キーを使用して負の値を入力します[a]
.（小数点）	.（ピリオド）[a]
0（ゼロ）	**0**（ゼロ）[a]

a. テンキーを備えたリモート・キーボードの場合は、該当するテンキーのキーまたはメイン・キーパッドのキーのどちらかを使用します。

注記

リモート・コンピュータのキーボードの**Ctrl＋Alt＋Delete**を押した場合は*必ず*、測定器ではなく、リモート・コンピュータに影響が生じます。通常は、このキーの組み合わせを押すと、Windowsのタスク・マネージャが表示されます。このため、リモート・コンピュータでこのキーの組み合わせを押しても、測定器をリブートすることは*できません*。

リモート・デスクトップ・セッションの終了

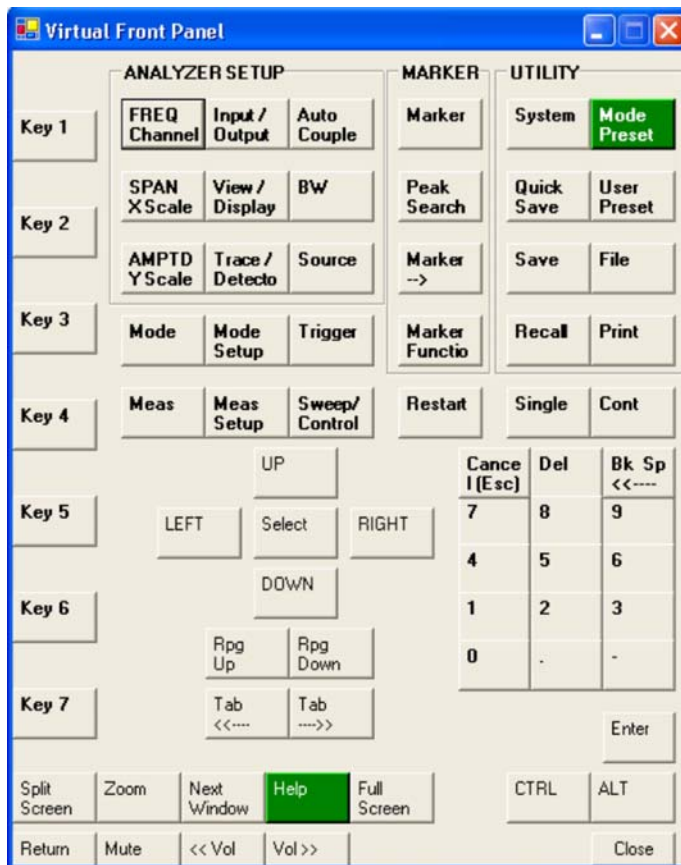
測定器からリモート・コンピュータを切断し、セッションを終了する方法は2通りあります。

ステップ	注記
1 **X**をクリックし、**OK**をクリックします。	全画面表示の場合は、Xはウィンドウの中央上部に表示されます。 全画面表示以外の場合は、Xはウィンドウのタイトル・バーの右側の赤いボックス内に表示されます。
または	
2 リモート・デスクトップが全画面表示の場合は、カーソルをウィンドウの左下に移動します： • **スタート**、**切断**をクリックします。 • **切断**をクリックします。	切断するかどうか確認を求められます。

仮想フロント・パネル

仮想フロント・パネルは、フロントパネル・キー・セットに相当するソフトウェアで、測定器を制御するためのもう1つの方法です。測定器（リモート・デスクトップ）の画面上の別のウィンドウに表示することも可能です。

注記　**マウスまたはその他のポインティング・デバイスが接続されていれば、測定器を直接使用する場合に仮想フロント・パネルを使用することもできます。**

マウスを使用してアプリケーションの表示ウィンドウで右クリックし、**ユーティリティ > 仮想フロント・パネル**を選択します。以下に示すような仮想フロント・パネルが表示されます。

仮想フロント・パネルのボタンをクリックすると、対応する測定器のフロントパネル・キーの操作が実行されます。パネルの左側にあるKey 1からKey 7までのボタンは、各ソフトキーの操作を実行します。Rpg UpキーとRpg Downキーは、ノブの操作を実行します。

内蔵Webサーバ：Xシリーズ・シグナル・アナライザのリモート使用

測定器は、内蔵WebサーバまたはWindowsリモート・デスクトップを使用して制御することができます。内蔵Webサーバは、測定器のユーザ・アカウントにログインしたくない場合に最適です。これにより、現在のユーザをログオフしなくても、表示を見たり、測定器を制御することができます。入力デバイスとしてリモート・コンピュータのキーボードが必要な場合（例えば、ファイル名を変更したり、タイトルを設定する場合）は、Windowsのリモート・デスクトップを使用してください。Windowsのリモート・デスクトップはまた、通常は応答時間が高速です。

インターネット経由での測定器へのアクセス

インターネットとWorld Wide Web、またはローカル・インターネット経由で、内蔵のWebサーバ機能を使用して、測定器にアクセスして制御することができます。このセクションでは、この機能の使用方法を詳細に説明します。

Windowsのリモート・デスクトップ機能を使用して、測定器にアクセス／制御することも可能です（詳細については、「リモート・デスクトップ：Xシリーズ・シグナル・アナライザのリモート使用」（78ページ）のセクションを参照）。

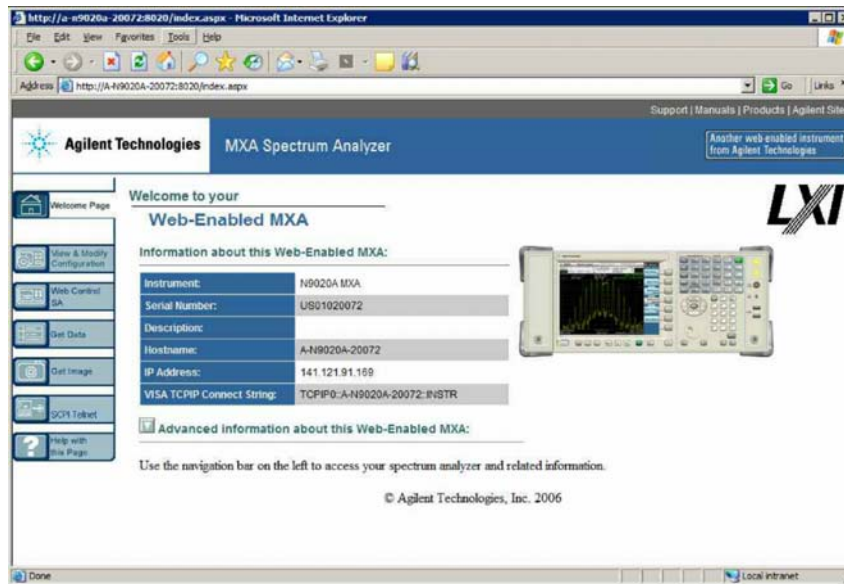
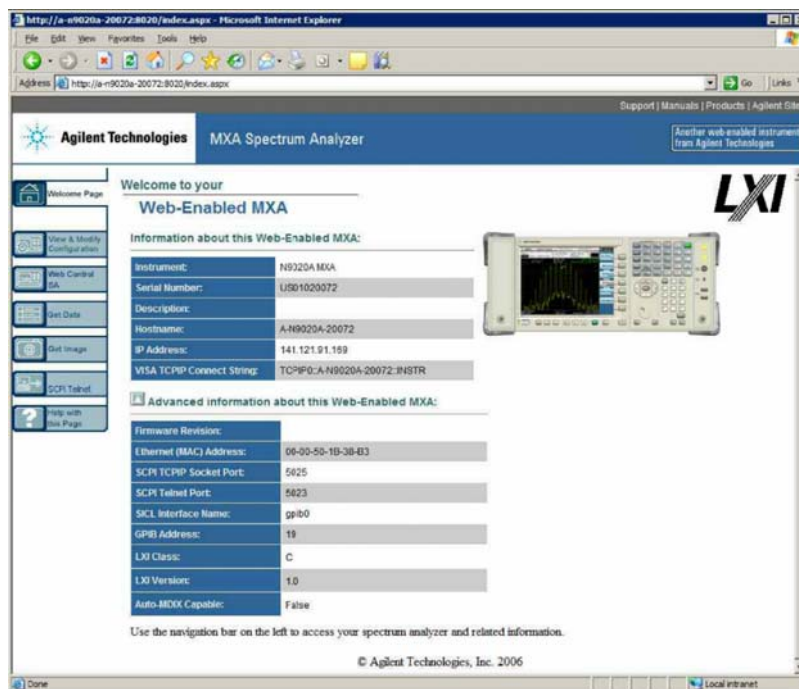
測定器に内蔵されているサーバ機能は、LXI (LAN eXtensions for Instrumentation) 規格に準拠しています。

注記 LANから測定器にアクセスするには、ホスト名（またはIPアドレス）が必要です。測定器の画面からこの情報を検索する方法の詳細については、「測定器のコンピュータ名の検索方法」（80ページ）を参照してください。

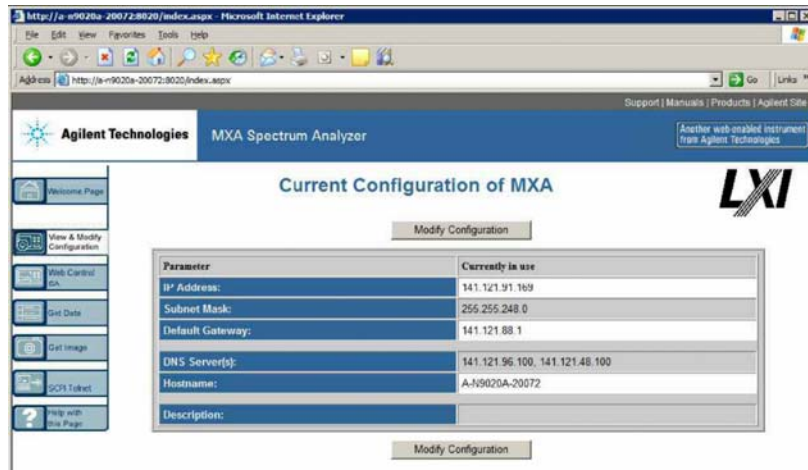
測定器へのアクセス

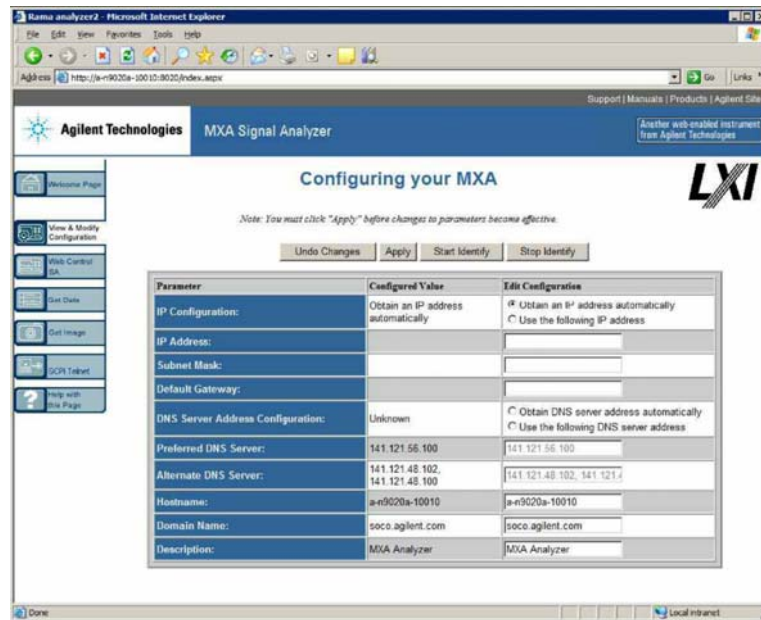
ステップ	注記
1 測定器のホスト名またはIPアドレスに対応するURLを入力します。	この機能は、Internet Explorerを使用している場合にだけフルサポートされています。 この例では、ホスト名は「a-n9020a-10010」です。
	接続すると、初期ページが表示されます。

測定器へのアクセス

ステップ	注記

ステップ	注記
2　**Advanced information about this Web-Enabled MXA**をクリックします。	詳細な設定と構成情報が表示されます。

ページの左側にはタブ・セットがあり、測定器の構成情報にアクセスしたり、Webインタフェース経由で制御することができます。

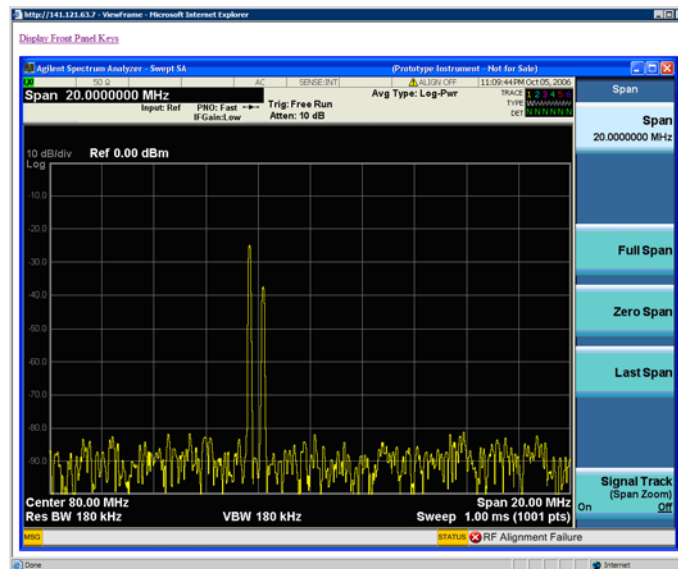
View & Modify Configurationタブの選択

ステップ	注記
1 **Verify and Modify Configuration**をクリックします。	Webページが表示されます。このページには、測定器に現在割り当てられているIPアドレスとその他のTCP/IPパラメータが表示されます。
2 いずれかの**Modify Configuration**ボタンをクリックします。	パスワード入力ダイアログが表示されます。
	デフォルトでは、このパスワードは「agilent」と工場設定されています。このパスワードは、後で変更することもできます。(パスワードを変更するには、測定器のフロント・パネルの**System**、**I/O**、**Config**、**Reset Web Password**を押します)。 正しいパスワードを入力すると、構成変更用のWebページが表示されます。

View & Modify Configurationタブの選択

ステップ	注記

ステップ	注記
3 必要に応じて新しい設定を入力し、**Apply**をクリックすると、新しい設定が有効になります。	Applyをクリックする前に、**Undo Changes**ボタンを使用して、すべての設定を前の値に戻すこともできます。
4 **Start Identify**と**Stop Identify**を使用して、測定器のLXIステータス・インジケータをオン／オフします。	このページの各構成ボタンについては、ツールのヒントをご利用いただけます。

Web Control SAタブへのアクセス

このタブを選択することにより、測定器をWebサーバ経由で表示、制御、対話することができます。

ステップ	注記
1　**Control**をクリックします。	パスワード入力ダイアログが表示されます。
	デフォルトでは、このパスワードは「agilent」と工場設定されています。このパスワードは、後で変更することもできます。（パスワードを変更するには、測定器のフロント・パネルの**System**、**I/O**、**Config**、**Reset Web Password**を押します）。 正しいパスワードを入力すると、測定器制御用のWebページが表示されます。 **注記**　測定器の画面を表示するには、測定器のアプリケーションを実行する必要があります。

2　**Display Front Panel Keys**をクリックします。	仮想キーボードが起動するので、測定器の制御に使用できます。

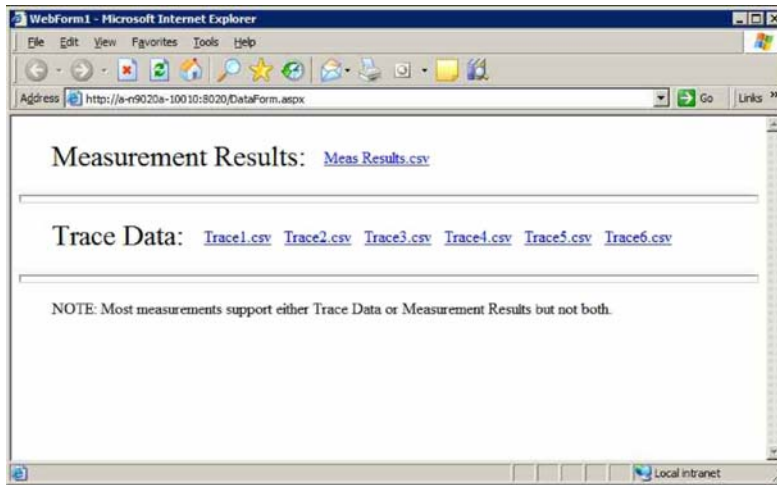
ステップ	注記

Get Dataタブの選択

Get Dataタブを選択することにより、測定器の現在アクティブ状態にある測定の結果を捕捉することができます。実行中の測定のタイプに応じて、捕捉結果はトレース・データか測定結果で構成されます。

注記　データをWebサーバを使って捕捉するには、測定器のアプリケーションを実行する必要があります。

キャプチャ・データはCSV (Comma Separated Value) ファイルとしてフォーマットされるため、クライアント・コンピュータのハードディスクに保存したり、Microsoft Excelなどのスプレッドシート・アプリケーションを使って開いたり、Microsoft Accessなどのデータベース・アプリケーションにインポートすることもできます。

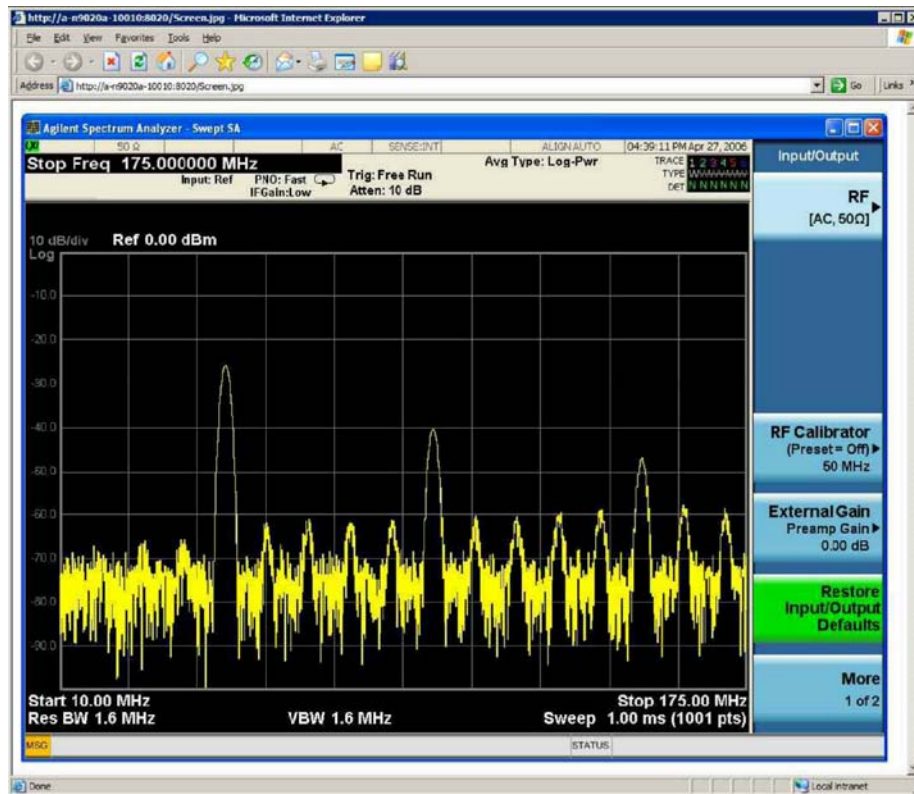
代表的なデータ捕捉用のWebページ画面を以下に示します。

現在実行中の測定が選択した結果タイプに対応していない場合は、このWebページには次のように表示されます。

Get Imageタブの選択

Get Imageタブを選択すると、測定器の画面が捕捉されます。

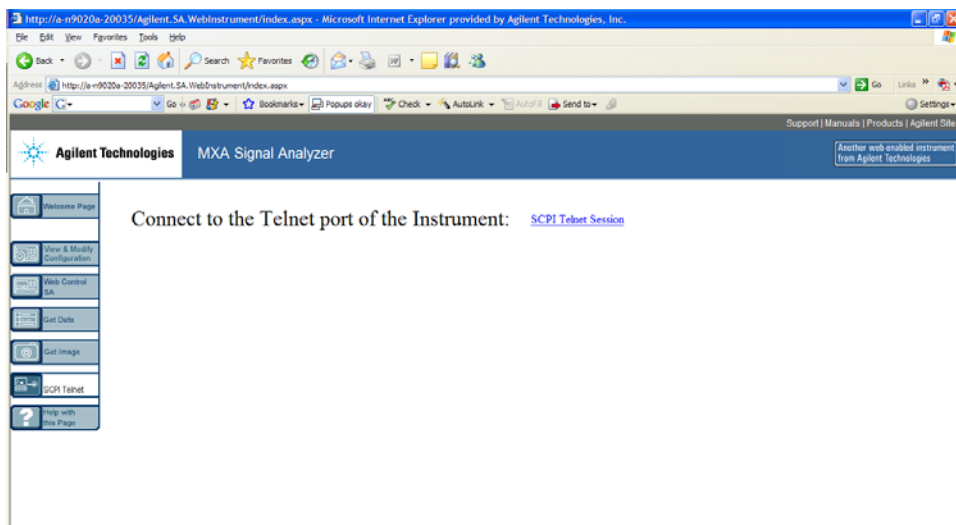
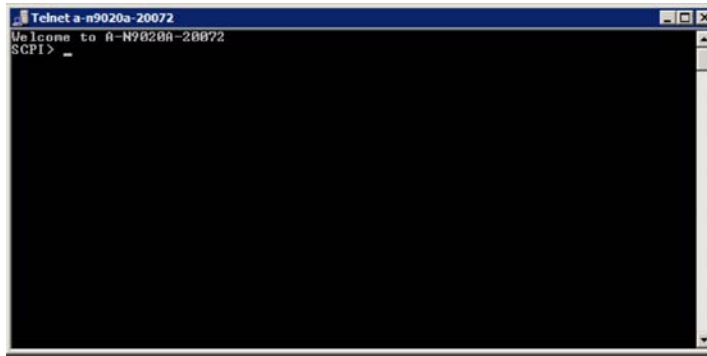
注記	画面イメージをWebサーバを使って捕捉するには、測定器のアプリケーションを実行する必要があります。

イメージはPNG (Portable Network Graphics) ファイルとしてデフォルト・ファイル名`Screen.png`に捕捉されます。画像ファイルは、クライアント・コンピュータのハードディスクに保存したり、Windowsのクリップボードにコピーすることができます。

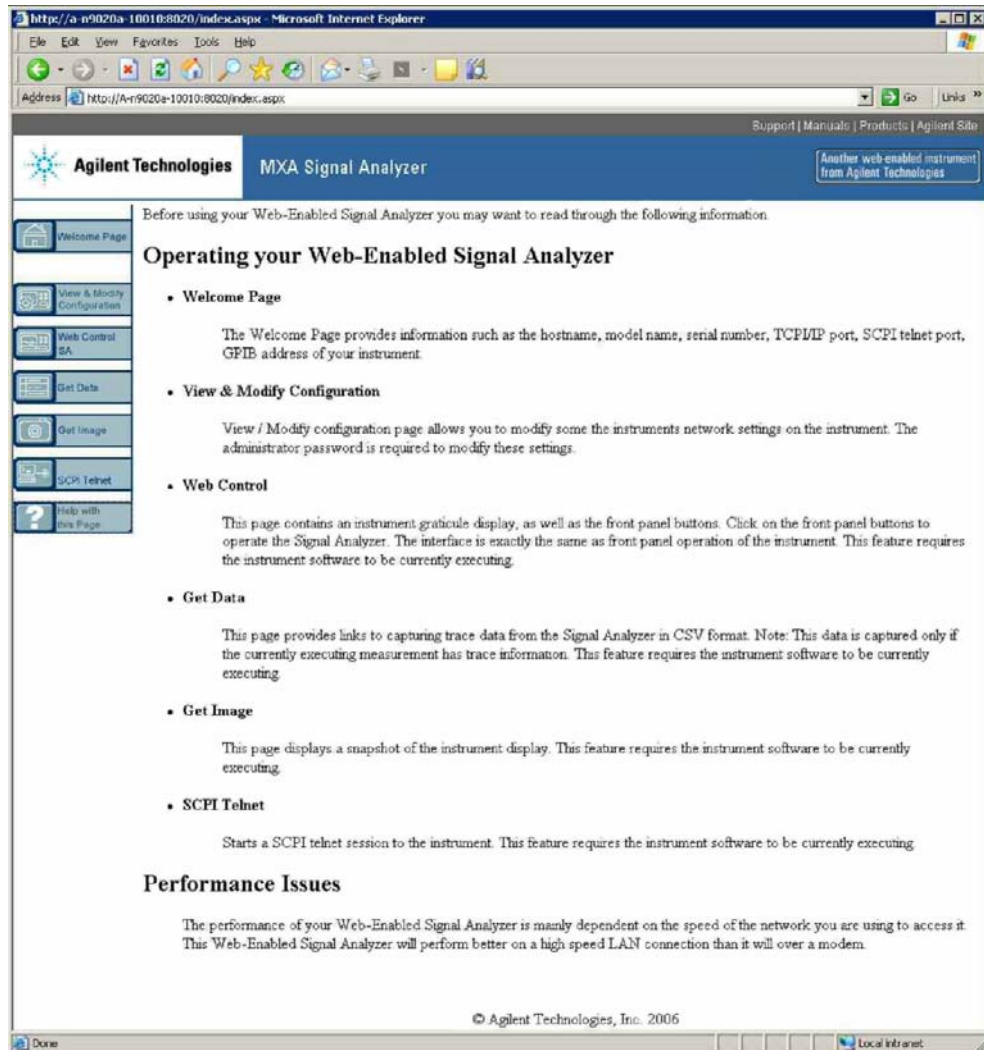
代表的なスクリーン・キャプチャ・イメージを以下に示します。

SCPI Talentタブの選択

SCPI Telnetタブを選択すると、測定器とクライアント・コンピュータとの間でTelnetセッションが開始します。SCPIアクセス用の測定器のTCP/IPポートは5023です。

注記 SCPI Telnetセッションを実行するには、測定器のアプリケーションを実行する必要があります。

ステップ	注記
1 **SCPI Talent**をクリックします。	パスワード入力ダイアログが表示されます。
	デフォルトでは、このパスワードは「agilent」と工場設定されています。このパスワードは、後で変更することもできます。
2 パスワードを変更するには、測定器のフロント・パネルの**System**、**I/O**、**Config**、**Reset Web Password**を押します。	正しいパスワードを入力すると、接続ウィンドウが表示されます。

ステップ	注記
3 **SCPI Talent Session**をクリックします。	Talentコマンド・ライン・インタフェースが表示されます。

ステップ	注記
4 コマンド・ライン・インタフェースを使用して、SCPIコマンドや問合せを入力することができます。	
5 Telnet セッションを終了するには、クライアント・コンピュータのキーボードの**Ctrl**+]を押します。	

Helpタブの選択

Helpタブを選択すると、以下のように、他の各タブに関する基本的なヘルプ情報と性能に関するヒントが表示されます。

表示およびウィンドウのキャプチャ／プリント

この機能を使用するには、外部キーボードとマウスが必要です。

デスクトップの保存：

ステップ	注記
1 外部キーボードの**Print Screen**を押します。	デスクトップがキャプチャされ、Windowsのクリップボードに保存されます。
2 Microsoft Paintなどのグラフィック・ソフトウェア・プログラムを開きます。	
3 クリップボードの内容をプログラムに貼り付けます。	キーボード・ショートカット**Ctrl＋v**は、クリップボードの内容を貼り付けます。
4 イメージをファイルに保存します。	

現在のアクティブ・ウィンドウの保存：

ステップ	注記
1 キャプチャするウィンドウをクリックします。	クリックしたウィンドウがアクティブになります。
2 外部キーボードの**Alt＋Print Screen**を押します。	ウィンドウがキャプチャされ、Windowsのクリップボードに保存されます。
3 Microsoft Paintなどのグラフィック・ソフトウェア・プログラムを開きます。	
4 クリップボードの内容をプログラムに貼り付けます。	キーボード・ショートカット**Ctrl＋v**は、クリップボードの内容を貼り付けます。
5 イメージをファイルに保存します。	

Windowsのショートカットおよびその他のタスク

このセクションでは、マウスやキーボードが接続されていない測定器を操作する場合に有用なWindowsのショートカット（キーの組み合わせ）をリストします。（「マウスがない場合のWindowsの移動」（74ページ）も参照してください）。これらのショートカットはすべてのWindows XPシステムで使用できますが、通常は、マウスやキーボードが接続されている場合には使用されません。

Windowsのショートカット（キーの組み合わせ）

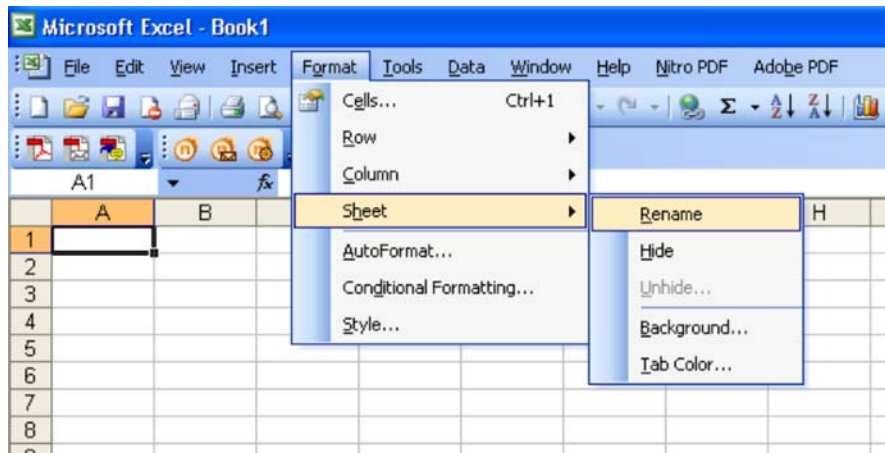
マウスやキーボードが接続されていない測定器を使用する場合は、以下のフロントパネル・キーの組み合わせを用いて、基本的なWindowsのタスクを実行することができます。

Windowsのショートカット・キーの組み合わせ

以下のタスクを行うには：	以下を押します：
Windowsのスタート・メニューを表示する	**Ctrl＋Esc**
すべてのオープン・アプリケーションを順次切り替える	**Alt＋Tab**
メニュー・バーの最初のメニューを選択する	**Alt**
メニューの見出し内を順次移動する	**左向き矢印、右向き矢印**
メニュー（ドロップダウン）を開く	**下向き矢印**
展開メニュー内の項目を順次移動する	**上向き矢印、下向き矢印**
現在のメニュー選択を閉じる	**Esc**
現在のメニュー・バー選択をキャンセルする	**Alt**
アプリケーションのコントロール・メニュー（通常は、メニュー・バーの左端のメニューで、**ファイル**で始まる）を開く	**Alt＋Select**
ダイアログで：タブ間を移動する	**Ctrl＋Tab**
ダイアログで：ダイアログ・ボックスの項目内を順方向に移動する	**Tab**
ダイアログで：ダイアログ・ボックスの項目内を逆方向に移動する	**Shift＋Tab**
ダイアログで：リスト・ボックスを開く	**Alt＋下向き矢印**
ダイアログ・リスト・ボックスまたはチェック・ボックスで：項目を選択する／選択を解除する	**Select**
ダイアログ・リスト・ボックスまたはチェック・ボックスで：一度に1つの項目を選択する／選択を解除する	**Shift＋上向き矢印、Shift＋下向き矢印**
マイコンピュータで、選択したフォルダの階層を表示する	**Enter**
マイコンピュータで、現在のフォルダの1つ上のレベルのフォルダを開く	**Bk Sp**

マウス／キーボードを使わないアプリケーション・メニュー移動

この例ではMicrosoft Excelを使用していますが、同様の一連の操作を実行することによって、任意のアプリケーションの任意のメニュー項目を選択／実行することができます。

以下に示すメニュー・バーの**書式**メニューから**シート > 名前の変更**オプションを選択／実行するには、

以下の操作を実行します。

ステップ	注記
1　**Alt**を押して、メニュー・バーの**ファイル**メニューを選択します。	該当するウィンドウをフォーカスします。
2　右向き矢印キーと左向き矢印キーを使用して、**書式**メニューに横移動します。	
3　下向き矢印を押して、**書式**メニューを階層表示します。	
4　下向き矢印キーと上向き矢印キーを使用して、**シート**・メニュー項目に縦移動します。	
5　右向き矢印キーを押して、**シート**・サブメニューを階層表示します。	**名前の変更**サブメニュー項目がすでに選択されているように見えます。同じサブメニューの別の項目を選択するには、下向き矢印キーと上向き矢印キーを使用して、目的の項目に縦移動します。
6　**Enter**を押して、選択した動作を実行します。	

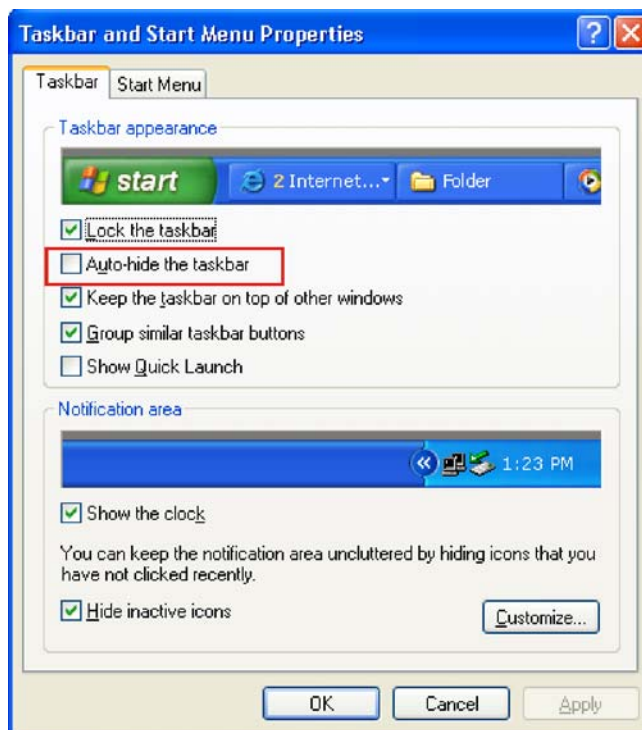
Windowsのタスクバーのauto-hide機能

測定器のアプリケーションを使用する場合は、Windowsのタスクバーは常にauto-hideモードでなければなりません。タスクバーがauto-hideモードに設定されていない場合は、測定器の画面の下側部分がタスクバーで覆い隠されてしまいます。

マウスを測定器に接続している場合は、故意であろうと偶発的であろうと、マウスのカーソルを画面の下部に移動すると、タスクバーが自動的に表示されます。タスクバーがauto-hideモードにある場合は、マウスのカーソルを画面の下部から遠ざけると、タスクバーは再び消えます。

Windowsのタスクバーをauto-hideモードに設定してしまった場合はいつでも、以下の手順を実行することによって、auto-hide動作を復元することができます。

タスクバーのauto-hideモードの復元

ステップ	注記
1　**スタート > コントロールパネル**をクリックします。	マウスを使用していない場合は、**Ctrl＋Esc**を押します。
2　クラシック表示では、**タスクバーと [スタート] メニュー**をクリックするか、 または、 カテゴリ表示では、**デスクトップの表示とテーマ、タスクバーと [スタート] メニュー**をクリックします。	マウスを使用していない場合は、「Windowsのショートカット（キーの組み合わせ）」（104ページ）のセクションに指定されているショートカット・キーの組み合わせを使用して、これらの選択を実行します。
3　**タスクバー**タブをクリックします。	タスクバーと [スタート] メニューのプロパティ・ダイアログが表示されます。

ステップ	注記
4　**タスクバーを自動的に隠す**チェック・ボックスを選択します。	マウスを使用していない場合は、auto-hideオプションが選択されるまで**Tab**を繰り返し押し、**Select**を押して、チェック・ボックスの状態を切り替えます。

タスクバーのauto-hideモードの復元

ステップ	注記
5 OKをクリックします。	変更が適用され、ダイアログ・ボックスが閉じます。

Windowsスタートアップ・フォルダ

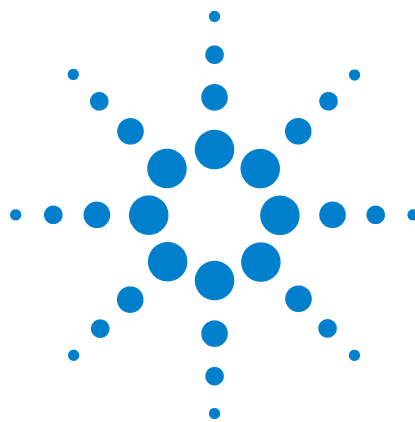
Windows XPシステムには必ず、スタートアップ・フォルダと呼ばれる専用フォルダがあります。プログラムやプログラムへのショートカットがスタートアップ・フォルダに入れられている場合は（Windowsまたはサードパーティ・アプリケーションによって）、Windowsがリスタートされるたびに、そのプログラムは自動的に実行されます。

Agilentが最初に測定器を設定した場合は、適切なアプリケーション・ソフトウェアやサポートされているプログラムへのショートカットはスタートアップ・フォルダ内にあります。スタートアップ・フォルダの内容は、本体と同時に購入されたオプションによって異なります。

重要 スタートアップ・フォルダ内にあるアイテムは*絶対に*削除したり、スタートアップ・フォルダから別のフォルダに移動しないでください。スタートアップ・フォルダ内のアイテムを削除／移動すると、Windowsのリスタート時にアプリケーションが自動的に起動しなかったり、測定器を使用している場合は特定のオプションが使用できなくなる場合があります。

スタートアップ･フォルダの内容を表示するには、以下のいずれかの手順を実行します。

- **スタート**、**すべてのプログラム**をクリックし、**スタートアップ**を選択するか、または、
- **スタート**、**マイコンピュータ**をクリックし、次のフォルダに移動します：**C:\Documents and Settings\All Users\Start Menu\Programs\Startup**。

ログオン中のユーザの対応するスタートアップ・フォルダには、追加スタートアップ・アイテムも表示されます。例えば、管理者ユーザのスタートアップ・フォルダは**C:\Documents and Settings\administrator\Start Menu\Programs\Startup**です。

5
トラブルシューティング

警告	本器内部にはオペレータによるサービスが可能な部分はありません。サービスはサービスマンに依頼してください。感電事故を防ぐため、カバーは外さないでください。

基本的なチェック

- コンセントに電力が供給されていますか?
- アナライザはオンになっていますか? 電源スイッチの隣の緑のLEDが点灯しているかどうか確認してください。また、アナライザ内部の冷却ファンが動作しているかどうかを動作音で確認してください。
- 他の機器、ケーブル、コネクタをシグナル・アナライザとともに使用している場合、それらが正しく接続され、正しく動作していることを確認してください。
- 測定アプリケーションは動作していますか? 動作していない場合は、デスクトップ上にソフトウェア起動ショートカット／アイコンがあります。
- 測定器アプリケーションがフォーカスされていますか? (すなわち、青いウィンドウ・バナーが強調表示されていますか?) フォーカスされていない場合は、Alt-Tabを使用してアプリケーションにフォーカスを移動します。
- 問題が初めて起きたときに実行していた測定手順を見直してください。すべての設定が正しいですか?
- アナライザが期待通りに動作しない場合は、**Mode Preset**を押してアナライザを既知の状態に戻してください。

注記　**アナライザの設定の中には、プリセットの影響を受けないものもあります。アナライザの設定をリセットするには、System、Power On、Restore Power On Defaultsを押します。**

- 実行中の測定と、予期される結果は、アナライザの仕様と能力の範囲内ですか? アナライザの仕様ガイドを参照してください。技術マニュアルのpdfファイルは、測定器(C:\Program Files\Agilent\SignalAnalysis\Infrastructure\Help\files)、測定器に付属のマニュアルCD、以下のAgilentのWebサイトで提供されています。

  http://www.agilent.com/find/pxa_manuals

  http://www.agilent.com/find/mxa_manuals

  http://www.agilent.com/find/exa_manuals

  http://www.agilent.com/find/cxa_manuals

- アナライザがLAN接続経由で通信しない場合は、リア・パネルのLANコネクタに黄色く点滅しているLEDがないか確認します。ACT LEDが点滅していない場合は、LANケーブルとLANの完全性を確認します。
- 仕様を満たすには、アナライザを調整する必要があります。Auto Align (On) 機能を選択するか（**System**、**Alignments**、**Auto Align**、**Normal**を押す)、アナライザを手動で調整する必要があります。

- アライメントを実行します。**System**、**Alignments**、**Align Now**、**All**を押します。
- 以前にアライメントを実行しても問題が解決しなかった場合は、**System**、**Alignments**、**Restore Align Defaults**を押します。**System**、**Alignments**、**Align Now**、**All**を押します。
- アナライザにエラー・メッセージが表示されていますか? 表示されている場合は、『Instrument Messages Guide』を参照してください。
- 外部周波数基準は選択されているものの、使用できないのかどうか確認します。**Input/Output**、**Freq Ref In**を押すことによって選択されているか確認します。**External**を選択した場合は、設定を**Sense**に変更することによって、アナライザは外部基準の存在を感知し、使用可能な場合に限って外部基準を使用します。外部基準の周波数が正しく設定されていなければなりません。
- 測定器のアプリケーション以外にWindowsプログラムを使用している場合は、動作が遅いことに気が付く場合があります。測定器のアプリケーションをシングル掃引／測定モードにします。

ヒント

シグナル・アナライザの*Agilent電子計測UPDATEサービス*に登録すると、新ファームウェアのリリースやその他の製品アップデート／情報を電子メールで受け取ることができます。次のURLを参照してください。
http://agilent.co.jp/find/notifyme

Microsoft Windows XP関連の問題

Microsoft Windows XPオペレーティング・システムの設定は、最適な性能が得られるように最適化されています。これらの設定を変更すると、測定器の性能や測定スピードが低下するおそれがあります。安全に変更できる設定については、「変更できる設定」（53ページ）を参照してください。

Xシリーズ・シグナル・アナライザはオープンなWindows環境で動作するので、ソフトウェアをインストールすることが可能です。ただし、許可されていないソフトウェアをインストールすると、測定器の性能に影響が及ぶ可能性があります。Agilentでは、許可されていないソフトウェアをインストールした場合の性能は保証しません。

サービスのためのアナライザの返送

Agilentへの連絡

Agilentの営業所は世界中にあり、アナライザに関するあらゆるサポートを提供しています。サービス情報の入手／交換用部品のオーダについては、計測お客様窓口までお問い合わせください（以下のリストを参照）。お問い合わせの際には、アナライザの製品番号、シリアル番号、ソフトウェア・リビジョンをお知らせください。

System、**Show**、**System**を押すと、製品番号、シリアル番号、ソフトウェア・リビジョン情報がアナライザの画面上に表示されます。シリアル番号のラベルはアナライザのリア・パネルにも貼付されれています。

Agilent Technologiesの所在地

オンライン・アシスタンス：http://www.agilent.co.jp/find/assist

アメリカ

カナダ
1 877 894 4414

中南米
(305) 269 7500

米国
1 800 829 4444

アジア太平洋地域

オーストラリア
1 800 629 485

中国
800 810 0189

香港
800 938 693

インド
1 800 112 929

日本
0 120 (421) 345

韓国
080 769 0800

マレーシア
1 800 888 848

シンガポール
1 800 375 8100

台湾
0800 047 866

タイ
1 800226 008

欧州／中東

オーストリア
43 (0) 1 360 277 1571

ベルギー
32 (0) 2 404 93 40

デンマーク
45 70 13 15 15

フィンランド
358 (0) 10 855 2100

フランス
0825 010 700*
*0.125ユーロ／分

ドイツ
49 (0) 7031 464 6333

アイルランド
1890 924 204

イスラエル
972-3-9288-504/544

イタリア
39 02 92 60 8484

オランダ
31 (0) 20 547 2111

スペイン
34 (91) 631 3300

スウェーデン
0200-88 22 55

スイス
0800 80 53 53

英国
44 (0) 118 9276201

その他の欧州諸国：http://www.agilent.co.jp/find/contactus

保証の確認

アナライザの保証については、『仕様ガイド』の先頭に記載されています。目を通してその条件を理解しておいてください。

アナライザが個別の保守契約の対象となっている場合は、その条件を理解しておいてください。

サービス・オプション

Agilentでは、保証期間終了後にアナライザのサービスを行うためのオプションのメンテナンス・プランを何種類か用意しています。詳細については計測お客様窓口までお問い合わせください。

保証期間終了後に自分でアナライザのサービスを行いたい場合は、テストとメンテナンスに関する必要な情報を記載したサービス・ドキュメントを購入できます。

サービス・ドキュメントは、計測お客様窓口に*オプション0BW*（アセンブリ・レベル・トラブルシューティング情報）としてオーダしてください。

サービス・タグ

サービスのためにアナライザをAgilentに返送する場合、この章の末尾にある青色のサービス・タグに記入して添付してください。問題についてできるだけ具体的に記入してください。画面に表示されたエラー・メッセージを記録したか、ファンクション・テストを実行したか、その他アナライザの性能に関する具体的なデータがある場合は、その情報のコピーを添付してください。以下に、タグの例を示します。

Agilent Technologies

Should one of your instruments need repair, the service organization is ready to serve you. However, you can help us serve you more effectively. When sending and instrument to Agilent for repair, please fill out this card and attach it to the product. Increased repair efficiency and reduced turn-around time should result.

COMPANY

ADDRESS

TECHNICAL CONTACT PERSON

PHONE Number EXT.

MODEL Number SERIAL Number

MODEL Number SERIAL Number

P.O. Number DATE

Accessories returned with unit:

☐ NONE ☐ CABLE(S)

☐ POWER CABLE ☐ ADAPTER(S)

OTHER:

Service needed::

☐ CALIBRATION ONLY

☐ REPAIR ☐ REPAIR & CAL

OTHER:

Observed Symptons/Problems

FAILURE MODE IS:

☐ CONSTANT ☐ INTERMITTENT

SENSITIVE TO:

☐ COLD ☐ HEAT ☐ VIBRATION

FAILURE SYMPTOMS/SPECIAL CONTROL SETTINGS:

If unit is part of system, list model number(s) of Other interconnected instruments.

測定器の梱包

納品時の梱包または同等の梱包を使用してください。出荷時の梱包材料があれば、それで機器を梱包してください。

注意　指定の梱包材料以外のものを使用すると、アナライザが損傷するおそれがあります。梱包材料として、スチレン・ペレットはどのような形のものでも使用しないでください。機器の緩衝用にも、カートンの中での移動を防ぐためにも役に立ちません。静電気を発生したり、アナライザの放熱口に入り込んで通気を妨害したりして、機器の損傷を招く恐れがあります。

アナライザの梱包には、以下のような市販の梱包材料を使用できます。

ステップ	注記
1　記入したサービス・タグをアナライザに添付する	
2　静電気による損傷を防ぐため、アナライザを静電気防止シートで包む	
3　強度の高い輸送用カートンを使用する	カートンには、アナライザを収めるのに十分な大きさと強度が必要です。159 kgの破裂強度を持つ2重壁の段ボール箱を使えば十分です。アナライザの全面に梱包材のための空間が8〜10 cm以上必要です。
4　機器を8〜10 cmの厚さの梱包材でくるみ、機器がカートン内で移動しないようにする	梱包用の発泡材がない場合は、プラスチックのバブル包装材を代わりに使用してください。プラスチックのバブル包装材は、約3 cmの気泡で満たされたプラスチックのシートのようなものです。静電気を防止するピンク色のバブル材を使用してください。機器をこの材料で何重かにくるめば、機器の保護と、機器がカートン内で移動しないようにするために十分です。
5　輸送用カートンを丈夫なナイロン製の粘着テープでしっかり封止する	
6　輸送用コンテナに**壊れ物、取扱い注意**と表示する	
7　輸送伝票のコピーを保存しておく	

索引

か

さ

た

な

は

ま

や

ら